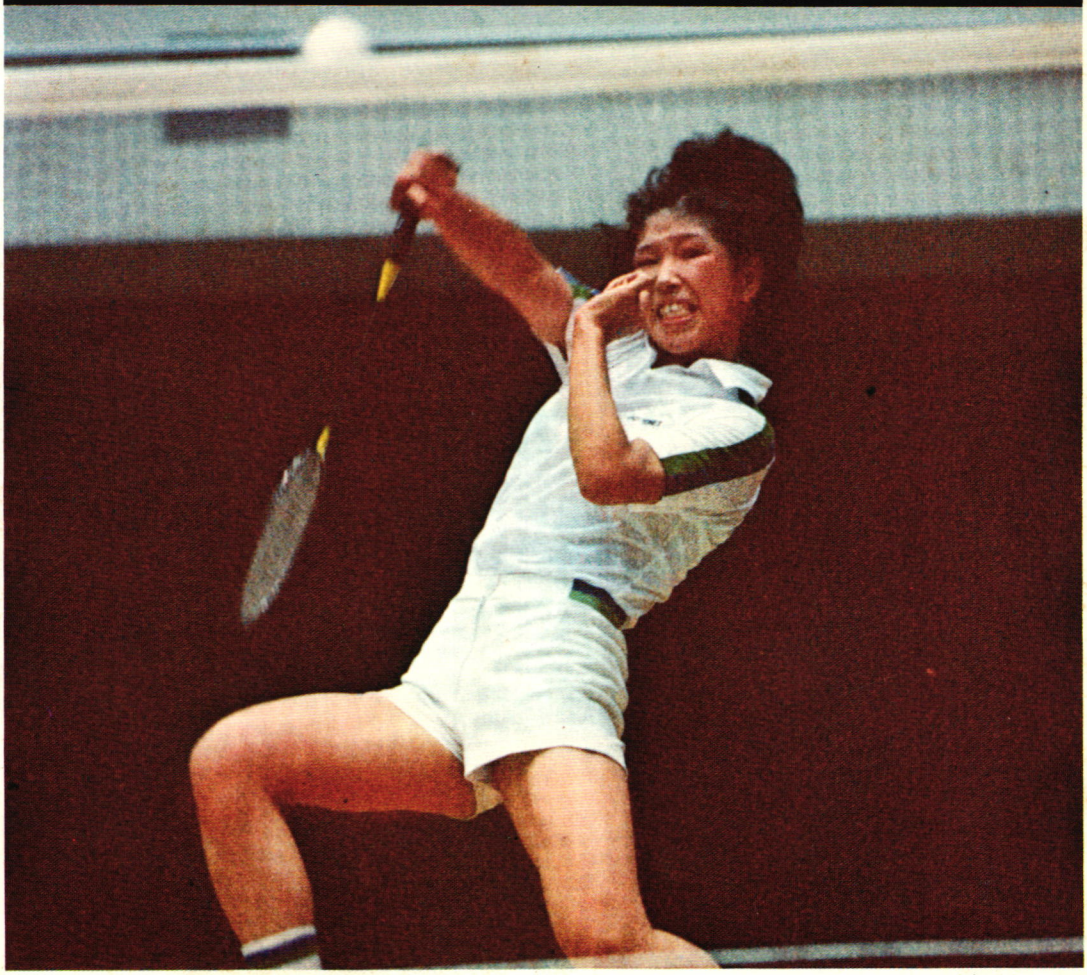
昭和44年12月23日第3種郵便物認可　昭和54年9月15日発行（毎月1回15日発行通巻第119号）

バドミントン 9

日本バドミントン協会　The Badminton World　No.119 1979

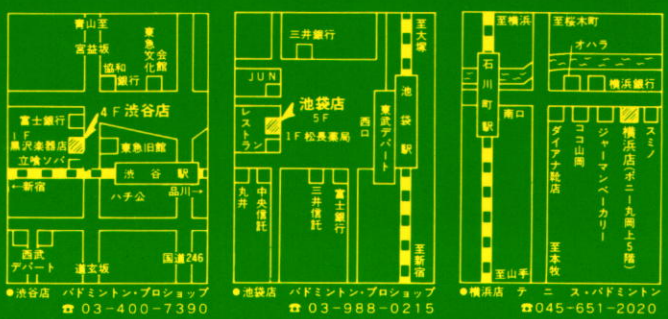


あなたは未来派(カーボン)？
頑固(ウッド)派？
現実(スチール)派？



●年中無休
●営業時間
AM 9：00～PM 9：00

ラケットショップ元町



●渋谷店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-400-7390

●池袋店 バドミントン・プロショップ
☎ 03-988-0215

●横浜店 テニス・バドミントン
☎045-651-2020

'79 インターハイ

団結の勝利、比叡山必死の

▼同決勝

○今市高 2―1 比叡山高

小野口			坂本			近藤			
馬場			高橋			藤野			
2			0			2			
15	8	15	5	8	15				
15	15	11	15	15	13				
5	15		15	5					
大島			馬杉			松井			
1			1			0			
15	15		15	15		能仁			
15	15		15	15					

（今市高は初優勝）

今年から実施された2複1単の試合形式をうまく生かし、全選手ムラのない力を発揮した今市高が、実に17年ぶりに関東の地へ優勝をもたらした。

今市高は、準決勝の対九州学院戦で権藤・村上組にトップ・ダブルスを奪われ、苦戦を強いられたが、馬場が落ち着いた試合運びを見せタイに持ち込み、第2ダブルスでは高橋・大島組がスピード感溢れるキビキビしたコンビネーションで競り勝ち、優勝への第一関門を突破した。

昨年優勝の九州学院は、今大会でもやはり優勝候補の一番手に挙げられていたが、2複1単によるエース権藤の起用どころの難かしさに泣いたのではないだろうか。

一方の準決勝、比叡山対石岡第一の一戦も、混戦模様を如実に示すような接戦となった。

第1ダブルスを失った比叡山は、シングルスの山本が2年生ながらがん張って、第2ダブルスへ勝負を持ち込み、第1ゲームを取られたが近藤・藤野組が当たりを取り戻し逆転、「石岡有利」の予想を打ち砕いて決勝へ進出した。

決勝は、当たりの出た近藤・藤野をトップに起用した比叡山がまず先手、しかし、シングルスの山本を故障で欠いたのは痛く、続く第2ダブルスの高橋・大島組が勢いに乗って、今市高が混戦に終止符を打った。

比叡山の松井・馬杉組も、一時は若い大島を巧みなロングサービスで苦しめ、ゲームオールに持ち込んだが、ファイナルゲームのスタートでつまずいたのが大きく響いてしまった。

今年は、例年に比べ関東勢の活躍がめざましく、優勝した今市高をはじめ、ベスト4の石岡第一、ベスト8の越ヶ谷高と多士済々であった。

なかでも、石岡第一は優勝をねらうに充分な戦力を備え、敗れてもなお印象に残る好チームだった。

優勝校今市高・別井晃監督の話

……みんながよくやってくれました。特にダブルスが安定していたし、馬場も確実にポイントを稼いでくれました。やはり粒が揃っていたというか、平均していたので、ダブルスをどちらに出しても一つは取れる計算ができました。

全国の情報を聞いて、ある程度はいけるんじゃないかとは思っていましたが、去年団体戦に出られなかったし、ブランクがあるので、その点だけが心配でした。

反対のブロックから比叡山が出てきて、比叡山とは一緒に合宿をやって手の内を知っていたし案外気は楽でした。逆に石岡が出てくると、ちょっと手強いかなと思っていました。

来年も、今年の経験者を生かして、またがん張りたいと思います。



17年ぶり関東へ覇権、今市高

畷記録更新に夢

比叡山が大健闘

▼女子団体3回戦

四条畷学（大阪） 2—0 昭和女高（大分）
成安女高（京都） 2—0 吉原高（静岡）
比叡山高（滋賀） 2—1 山陽女高（岡山）
金沢向陽（石川） 2—1 善通寺一（香川）
新潟青陵（新潟） 2—1 昭和学院（千葉）
千葉学園（青森） 2—1 大津高（滋賀）
帝塚山高（奈良） 2—1 聖ウルスラ（宮城）
園田学園（兵庫） 2—1 熊本中央（熊本）

▼同準々決勝

○四条畷学 2—1 成安女高
富田 10 15
松田 0 11 15
2 福田
青山

○新潟青陵 2—0 千葉学園
西村 11 11
2 0 5
0 喜多
藤島

○比叡山高 2—0 金沢向陽
新木 15 15
2 3 5
0 北村
植松

植田 11 11
北田 2 0 1
0 山田

岩見 15 15
磯野 2 1 5
0 森
藤井 15 15
遠藤 2 15 7 6
0 米田
佐藤

▼同準決勝

○四条畷学 2—1 比叡山高
冨田 13 15
松田 1 15 1 15
2 岩見
磯野

北田 11 11
新木 2 1 0
0 平山
植田

植田 15 15
加藤 2 18 10
0 西村
宝田

○新潟青陵 2—1 園田学園
真保 15 15
富岡 2 7 5
0 阿部
谷沢

野上 4 10
0 11 12
2 原田
藤井

藤井 15 15
遠藤 2 5 8
0 河原
加藤

▼同決勝

○四条畷学 2—0 新潟青陵
北田 15 15
松田 2 6 9
0 藤井
遠藤

植田 11 11
2 6 5
0 野上
（四条畷学園は5連勝8度目）

野上 11 10 11
2 7 12 6
1 藤永

○園田学園 2—1 帝塚山高
阿部 7 15
谷沢 0 4 15
2 大野
平林

原田 11 11
2 1 0
0 杉岡

河原 15 18
加藤 2 7 15
0 石橋
尾崎



バドミントン 9

❷ 全国高等学校総合体育大会 団結の勝利、今市初優勝	㉘ 第22回東日本学生選手権大会 西山、底力の三冠王
❹ 5連覇8度目、四条畷記録更新に夢 新潟青陵またも2位	㉞ 昭和54年度関西学生選手権大会 中村、河村がそれぞれシングルスを制す
❻ 史上2人目、権藤気力の大偉業 実力互角の馬場、膝の関節炎に泣く	㊱ 海外トピックス 日本から来た優雅なシャトラー ほか
❽ 〝10年に一人の偉材〟北田が独走 原田が2位、地元勢もがん張る	㊳ バドミントン物語 そのルーツをさぐる
❿ 権藤・村上組、混戦を抜け出す 岡野・小西組、あと一息の準優勝	㊴ 30回目を迎えた五大都市体育大会 ママさん選手もシャトルを追って
⓬ 北田・冨田組、長身コンビのパワー 来年に期待、若さの高峯・陣内組	㊵ 5分間インターバルをめぐって 当の主審は語る ほか
⓮ 各国のトップ・プレーヤーが オークランドで熱戦	㊸ 分析シリーズ・バドミントンの時間分析 ワールドカップ'79女子ダブルス決勝
㉒ われらのクラブ㉑ 海老津バドミントン・クラブ	㊽ 関東学生秋季リーグ戦のご案内 編集室から

◇表紙デザイン・構成、本文カット＝野間デザイン室
◇表紙・本文中写真撮影＝赤星三樹（使用カメラ/ニコンFM　レンズ/NIKKOR　20/3.5, 50/1.4, 200/2）
◇今月の表紙＝全日本実業団選手権で準優勝の米倉よし子

今市（栃木）初優勝

追撃ならず

第30回全国高等学校バドミントン選手権大会は、8月1日から6日間〝みずうみのまち〟大津市で開催されました。

連日の30度を超える猛暑も、スコールに似たご当所特有の天候に助けられ、随所に高校生らしいプレーが展開されました。

男子団体は、今市高（栃木）がチームワークよく初優勝、女子団体は四条畷学園（大阪）が善通寺一と並ぶ5連勝を達成しました。

個人では、昨年の三冠王・権藤浩二選手（九州学院）、北田スミ子選手（四条畷学園）が単複を制し、快記録を打ち立てました。

▼男子団体3回戦

九州学院（熊本） 2—0 吉田商（新潟）
高松商（香川） 2—0 君津商（千葉）
東奥義塾（青森） 2—0 日川高（山梨）
今市高（栃木） 2—0 足羽高（福井）
比叡山高（滋賀） 2—0 逗子開成（神奈川）
金沢市工（石川） 2—1 新宮商（和歌山）
石岡第一（茨城） 2—1 正強高（奈良）
越ヶ谷高（埼玉） 2—0 宮崎工（宮崎）

▼同準々決勝

○九州学院 2—0 高松商
権藤 村上 2 — 岡野 小西 1
15 15 17 / 8 15 9 / 2 — 18 9 1
○今市高 2—0 東奥義塾
堺 2 — 竹田 0
15 15 / 9 1 / 2 — 1 0
小野口 坂本 2 — 鈴木 田中 1
15 15 7 / 12 5 15 / 2 — 15 10 6
○石岡第一 2—1 越ヶ谷高
朝香 飯野 2 — 平山 儘田 0
15 15 / 2 10 / 2 — 8 15 / 0
松井 馬杉 2 — 金谷 吉田 0
15 15 / 4 11 / 2 — 11 / 0
山本 1 — 坂井 2
7 14 15 / 15 17 6 / 1 — 15 / 2
○比叡山高 2—1 金沢市工
近藤 藤野 2 — 香林 奥本 0
15 15 / 3 9 / 2 — 9 / 0
馬場 2 — 丸山 0
15 15 / 2 4 / 2 — 4 / 0
木村 0 — 伊藤 2
8 12 / 15 15 / 0 — 15 / 2
木内 田口 2 — 萩原 峰 0
15 15 / 8 5 / 2 — 8 / 0

▼同準決勝

○今市高 2—1 九州学院
小野口 坂本 0 — 権藤 村上 2
5 15 / 15 18 / 0 — 21 / 2
馬場 2 — 堺 1
15 13 15 / 2 15 9 / 2 — 15 / 1
高橋 大島 2 — 田中 本石 0
18 15 / 14 8 / 2 — 8 / 0
○比叡山高 2—1 石岡第一
松井 馬杉 0 — 朝香 飯野 2
6 3 / 15 15 / 0 — 15 / 2
山本 2 — 木村 0
15 17 / 11 16 / 2 — 11 / 0
近藤 藤野 2 — 木内 田口 1
8 15 / 15 8 / 2 — 15 / 1



初優勝をかみしめる今市高メンバー

'79 インターハイ

5連覇8度目、四条

新潟青陵またも2位、地元

四条畷学園が、苦戦に苦戦を重ねた末、遂に5連覇を達成、連勝記録への王手をかけるとともに、同校の通算記録を8度と延ばした。

予想通りだったとはいえ、四条畷はまさに茨の道を歩く戦いぶりだった。

まず準々決勝では、成安の青山・福田組の素早い揺さぶりと粘りにあい、冨田・松田組が後半自滅して先行された。

そして、準決勝の対比叡山戦でも、冨田・松田組が依然と不振を続け、またもや先行され、北田のシングルスでひと息ついたものの、第2ダブルスの前半でシーソーゲームを展開、雲行きが怪しい場面もうかがわれた。

結局、植田・新木組が防波堤となって粘り抜き難を逃がれたが、成安女、比叡山の善戦がひと際光っていた。

また、過去に四条畷と幾多の名勝負を演じてきた新潟青陵は、藤井・遠藤組を軸に大健闘の決勝進出であった。

しかし、決勝はオーダーをガラリと変えた四条畷の作戦と、この上ない北田の重圧に屈した格好となった。

期待された熊本中央女は、1年生・陣内が奮闘したが、いかにもシングルスの荷は重く、上位進出はならなかった。

優勝校四条畷学園・片岡輝明監督の話……今大会の組合わせを見たときから、その場その場の状況に合わせ、相手校と対戦相手を想定して練習してきたんやけど、やー、ホンマにシンドかったワ。勝負に勝つことは勝ったけど、勝負に勝って試合に負けたいう心境やわ。本当に成安は強かった。比叡山も強かった。今年は勝ったという実感がせんワ。

今年から2複1単になったわけやけど、できることなら2単1複にして欲しかった。このままでは日本にシングルスプレーヤーが育たなくなりますよ。なんといってもラケット競技の基本はシングルスなんやから、シングルスをおろそかにしたらアカンワ。そんな意味からも、来年もシングルスは取り続けますよ。来年勝てばシングルスのV10ということやから。団体戦ももちろん大切やけど、それ以上にシングルス・プレーヤーを育てることが私のイズムなんですワ。





破竹の5連覇、四条畷学園

藤気力の大偉業

膝の関節炎に泣く

▼男子シングルス3回戦

権藤 浩二（九州学院）	2—0	望月 規義（吉原工）
田中 一也（追浜高）	2—0	田村 博（富山商）
桜場 光浩（大河原商）	2—0	古賀 勝志（奈良正強）
大通 良行（桐生市商）	2—0	竹端 英夫（比叡山）
秋月 道隆（小松島）	2—1	松田 勝俊（日大山形）
手塚 雅志（向島工）	2—0	菅原 一行（千厩農）
坂井外喜男（金沢市工）	2—0	木村 和夫（石岡第一）
大瀬 久司（足羽高）	2—0	伊藤 芳文（宮崎工）
石場 隆雄（瓊浦高）	2—1	下村 和永（足羽高）
小西 太（高松商）	2—0	中里 宏行（農大二高）
村本 幹夫（七尾工）	2—0	渡部 保紀（札幌清田）
和泉 伸次（岐阜工）	2—0	三田美洋一（横浜立野）
松野 修二（日川高）	2—0	前田 雅美（倉敷工）
馬場 良浩（今市高）	2—1	溝渕 秀紀（土佐高）
貴田 昌史（奈良正強）	2—0	菊地 久典（千厩高）
井上 哲章（熊商大付）	2—0	飯塚 芳英（吉田商）

▼同4回戦

権藤 2	15—7	15—3	0	田中	大通 2	15—7	15—7	0	桜場	手塚 2	15—3	15—7	0	秋月	坂井 2	15—13	15—2	0	大瀬	石場 2	15—8	15—8	0	小西	村本 2	15—2	17—15	5—15	1	和泉	馬場 2	15—5	15—8	0	松野	井上 2	15—8	15—11	0	貴田

▼同準々決勝

権藤 2	15—7	15—7	0	大通	坂井 2	15—1	15—5	0	手塚	村本 2	15—2	18—13	0	石場	馬場 2	15—5	15—13	0	井上

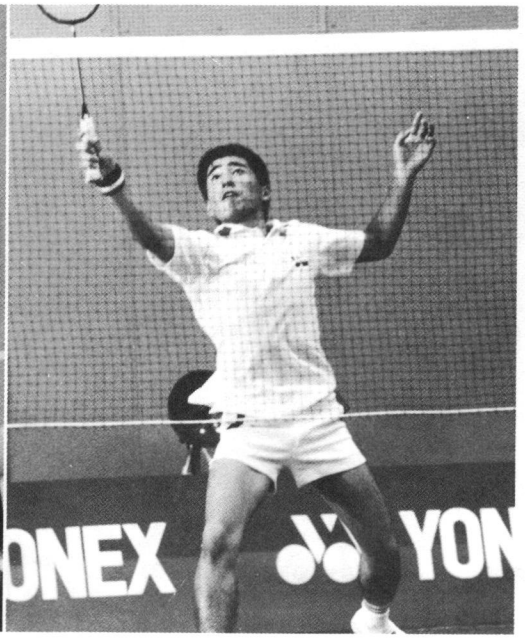
▼同準決勝

権藤 2	15—1	15—7	0	坂井	馬場 2	15—9	15—5	0	村本

▼同決勝



悲願達成ならず、馬場良浩選手



根性・気合いの権藤浩二選手

'79 インターハイ

史上２人目、権

実力互角の馬場、

権藤 2 (17—14 15—4) 0 馬場

（権藤は2連勝2度目）

昨年三冠王の権藤が、第10・11回大会の岡崎恵三（横浜緑ヶ丘）以来、史上2人目の2年連続のチャンピオンとなった。

天才型といわれ、長身からの豪打が売り物だった岡崎に比べ、権藤は小柄な体を克服する底知れぬ闘志、気力の勝利だったといえよう。

そして、それにも増して観衆の胸を打ったのは権藤のひたむきさであろう。

「ファイトだー」「根性、コンジョオー」「絶対取るぞ」権藤の口から発せられる掛け声に、はじめは苦笑を禁じ得なかった観衆が、徐々に吸い寄せられていく。

場所をはばからない真剣さ、一途さに、敵も味方も、知らず知らずのうちに共鳴してしまうのである。

また、決勝で敗れた馬場も、高校生らしさという点で、勝者に負けない清々しさを残したといえる。

年々過度になりつつあるガッツポーズが、ともすると相手を威嚇（いかく）することに傾いて、不快な印象を与えるのに、これに逆行するかのように、茫洋（ぼうよう）な、おおらかな試合態度を見せ、ミスジャッジにも笑顔さえ見せる余裕を示した。

試合後、悔し涙を流して天を仰ぐ姿を含めて、大物感が漂っていた。

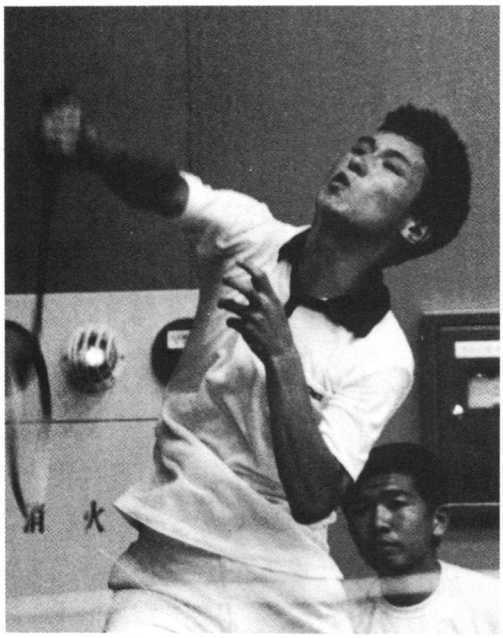
馬場は、準々決勝で優勝候補の一人、井上（2年）と大激戦を繰り広げ、強打でこれを退けたが、決勝ではリードしていた第1ゲームを逆転され、第2ゲームから古傷の膝の関節炎が再発してしまった。

優勝・権藤浩二選手の話……シングルスの最後がきつかったです。ダブルスで逆転できたので乗ったのだと思います。馬場とは全国中学、高1の選抜で当っているので同じ作戦でいきました。

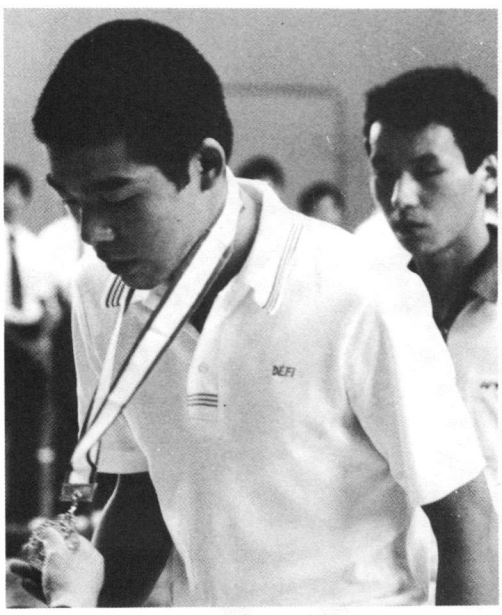
バドミントンはすべてではないけれど、自分の性格を表現する手段です。ケンカのつもりでやっています。

両方勝てて嬉しいです。

準優勝・馬場良治選手の話……（終始涙ぐんでなかなか言葉にならない）駄目です。（自分を叱咤するように）権藤に勝ちたかった。（第2ゲーム、ビッコをひいていたのはケイレンしていたんですかの問いに）関節炎なんです。コブができてるんです。でも関係ないです。……権藤に勝てばバドミントンを止められたのに。



ベスト4は立派、村本幹夫選手



粘りが身上、坂井外喜男選手

材〝北田が独走

元勢もがん張る

▼女子シングルス3回戦

北田スミ子（四条畷学）2—0 中田　朋子（藤園女）
岡本　昌子（善通寺一）2—0 藤井　直子（新潟青陵）
小菅　智子（松戸高）2—0 佐野八重美（吉原高）
野口　英代（渋川女）2—1 岩見　洋子（比叡山）
宮崎　玲子（横浜立野）2—1 西本　秀子（聖ウルスラ）
小路　和代（金城高）2—1 大野真裕美（帝塚山）
陳内貴美子（熊本中央）2—1 福田麻寿美（成安女）
西村美千代（比叡山）2—0 内田　雅子（八幡大付）
村松　早苗（金沢向陽）2—0 川口美由起（川口女）
上久保美恵子（昭和学院）2—0 原田　美和（山陽女）
青山　寿美（成安女）2—0 芦沢恵理子（吉原高）
高鴨　芳香（土佐女）2—0 渡部真千子（若松女）
原田　純子（園田学園）2—0 国奥美智代（高岡商）
高峯　和子（熊本中央）2—0 富岡　栄子（新潟青陵）
磯野恵理子（比叡山）2—0 大部　弘美（日立二）
滝本　裕美（弘前聖愛）2—1 只野　晴美（札幌静修）

▼同4回戦

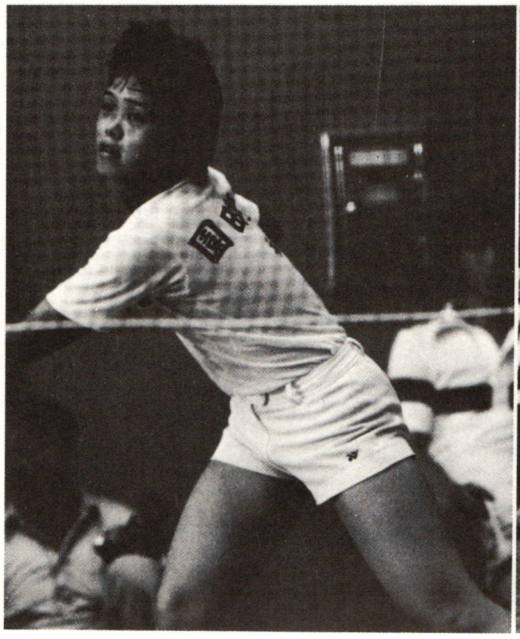
北田2 11—2 11—4 0岡本
野口2 11—5 4—11 11—5 1小菅
小路2 11—8 11—6 0宮崎
西村2 11—8 11—8 0陣内
上久保2 11—3 11—4 0村松
青山2 11—4 11—4 9—12 1高鴨
原田2 11—6 11—7 0高峯
磯野2 11—2 11—2 0滝本

▼同準々決勝

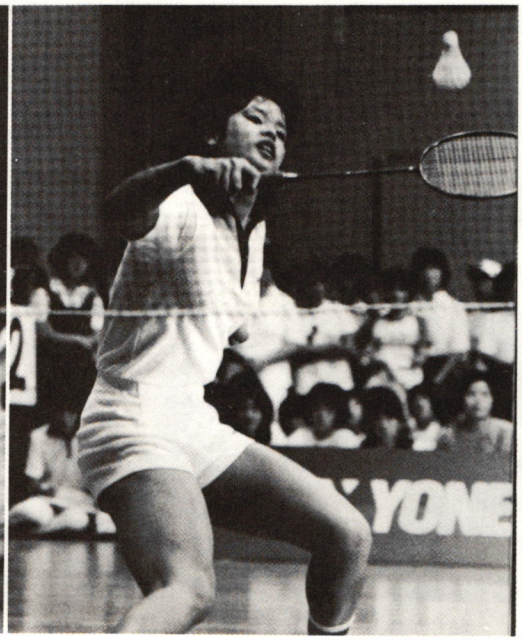
北田2 11—1 11—1 0野口
西村2 11—3 12—9 7—11 1小路
青山2 11—1 12—10 0上久保
原田2 11—5 11—6 0磯野

▼同準決勝

北田2 11—1 11—0 0西村
原田2 11—2 7—11 0青山



華麗なテクニック、原田純子選手



貫禄十分、北田スミ子選手

'79 インターハイ

〝10年に一人の偉

原田が2位、地

▼同決勝

北　田　2（11—3、11—1）0　原　田

（北田は2連勝2度目）

前評判通りの、北田の圧倒的な強さがひかっていた。

例年生まれるチャンピオンと比較しても、ひと回りもふた回りも大きく、何よりも2年連続の三冠王という偉業が、それを実証している。

打って良し、守って良し、おまけに絶対に自分からは凡ミスをしないというのが最大の武器。一六三センチの長身から繰り出すストロークには、パワーあり、角度あり、文句のつけようがなく、湯木博恵以来の偉材といって過言ではない。

コートを離れれば、底抜けの明かるさをふりまき、屈託のなさも人一倍、近い将来日本バドミントン界に〝北田時代〟が訪れるのは時間の問題か。

北田のあまりの強さのため、やや影の薄れた存在となったが、準優勝の原田もまた、美しいフォームと巧みなラケットさばきを見せ、非凡なところをうかがわせた。

小柄であるために、力強さに欠けるが、洗練された貴重なサウスポーといえるだろう。

これも小柄の不利を克服してベスト4へ進出した青山は、丁寧なストロークと粘りが身上、名門（成安女）復活のノロシを挙げたのは立派。

地元滋賀勢も、団体戦の余勢をかって、西村がベスト4、磯野がベスト8入りを果たし、力強いストロークとよく走る脚を披露、今年の滋賀県のレベルの高さを印象づけた。

1年生で脚光を浴びたのが、熊本中央高の陣内。

スラリとした長身から、ケレン味のない攻撃的なバドミントンを見せ、ベスト16止まりとはいえ、将来が楽しみな選手である。

優勝の北田スミ子選手の話……

うれしいデスゥー。（本当に嬉しそうな表情）もっと苦戦すると思っていたんですが……。団体戦も絶対勝つと信じていました。ただ何も考えずに一年間やってきました。今回はスムーズにいったような気がします。勝てたから本当に良かった。（これからの抱負は？の質問に）全英に出たいですけど、今はそんなこと何も考えずに、目の前の試合を一つ一つ一生懸命やっていきたいです。

準優勝の原田純子選手の話……

北田さんはすごくうまいなあと思いました。とにかく決勝までは行きたかった。危ない試合も随分しましたが……。（悔いがないようなサッパリした表情）



山椒は小粒でも、青山寿美選手



地元に応える西村美千代選手

混戦を抜け出す
一息の準優勝

▼男子ダブルス3回戦

権藤・村上（九州学院）	2—0	田中・宮崎（君津商）
木内・田口（石岡第一）	2—1	宮坂・村本（七尾工）
前田・鈴木（逗子開成）	2—1	松木・竹田（高松商）
高野・飯塚（吉田商）	2—0	阿部・和泉（境港工）
近藤・藤野（比叡山）	2—0	藤田・三田（福野高）
伊藤・峰（越ヶ谷高）	2—0	藤田・校条（東海高）
菅野・高橋（仙台商）	2—0	高田・渡部（札幌清田）
中鉢・松田（日大山形）	2—0	大島・大堀（今市高）
貴田・古賀（奈良正強）	2—0	川上・野口（西条農）
松野・宮（日川高）	2—0	和泉・戸崎（岐阜工）
桜場・井上（大河原商）	2—0	三次・外本（玉名高）
小野口・坂本（今市高）	2—0	小林・村尾（紫野高）
山本・馬杉（比叡山）	2—0	清水・高崎（春日部高）
飯野・朝香（石岡第一）	2—0	黒川・大瀬（足羽高）
鈴木・田中（東奥義塾）	2—0	前田・竺原（倉敷工）
岡野・小西（高松商）	2—0	坂井・金谷（金沢市工）

▼同4回戦

権藤・村上	2	(15—10 17—18 15—8)	1	木内・田口
高野・飯塚	2	(15—12 15—9)	0	前田・鈴木
伊藤・峰	2	(15—9 15—5)	0	近藤・藤野
菅野・高橋	2	(15—12 18—13 12—15)	1	中鉢・松田
松野・宮	2	(17—16 15—7)	0	貴田・古賀
桜場・井上	2	(15—8 15—6)	0	小野口・坂本
山本・馬杉	2	(15—5 1—15 15—9)	1	飯野・朝香
岡野・小西	2	(15—11 9—15 15—4)	1	鈴木・田中

▼同準々決勝

権藤・村上	2	(15—6 15—5)	0	高野・飯塚
伊藤・峰	2	(15—2 15—9)	0	菅野・高橋
桜場・井上	2	(15—11 15—5 7—15)	1	松野・宮
岡野・小西	2	(15—5 15—9)	0	山本・馬杉

▼同準決勝

権藤・村上	2	(15—9 15—4)	0	伊藤・峰
桜場・井上	2	(15—3 15—5)	0	岡野・小西

▼同決勝

権藤・村上	2	(17—14 15—7)	0	岡野・小西

（権藤・村上組は初優勝）

大混戦だった男子ダブルスを象徴するように、上位入賞はならなかったが、木内・田口（石岡第一）が優勝ペアと互角に打ち合ったり、鈴木・田中（東奥



してやったり権藤・村上組

関根義雄の観戦記

今年は、男子も女子も試合形式が変ったので、監督さんが苦心していたようです。エースをシングルスで使うか、ダブルスで使うか頭を痛めていたようですね。そして結局、第2ダブルス

'79 インターハイ

権藤・村上組、

岡野・小西組、あと

義塾）組が最後まで準優勝ペアを苦しめるなど、好ゲームが続出した。

そのなかでも、ハイライトはやはり決勝戦の第2ゲーム。第1ゲームは取ったものの、10―14とゲームポイントを握られ、権藤・村上（九州学院）組になにやら怪しいムードが漂いかけた。

しかし、このゲームを取ればという岡野・小西（高松商）組も、ここで数度のゲームポイントを逃がす緊張ぶり。

ファイナルゲームに持ち込むと、後のシングルス決勝にも影響するとあって、権藤は必死の形相で村上をリード、一本一本祈るような仕草を交えてジリジリと反撃。

固くなった岡野組に対し、追い上げる強みでセッティングに持ち込み、勢いに乗じて一気に試合を決してしまった。

このゲームを奪い返せば、まだまだ勝敗の行方は予断を許さなかっただけに、岡野組にとっては悔んでも悔み切れない決勝戦であった。

伸び伸びしたプレーでベスト4入りを果たした伊藤・峰（越ヶ谷高）組、桜場・井上（大河原商）組は、新進校らしさを振りまいて大健闘、何よりも思い切りの良さが身上だった。

団体戦上位校のなかから期待された小野口・坂本（今市高）、近藤・藤野（比叡山）組は、クジ運の悪さもあって力を発揮することができず惜しまれるところ、団体戦で燃え尽きたのかも知れない。



善戦空し岡野・小西組

準優勝の岡野佳浩・小西太選手の話

……思い切ってやったので悔いはありません。（うなずき合う）第2ゲーム、これはいけると思ったんですが、ちょっとミスが多かった。押され気味でした。一応決勝まで行くつもりだったんですが、4回戦の東奥義塾との試合はきつかったです。（どれぐらい練習したのですかの問いに）毎日6時間ぐらいしました。

の勝負になったケースが多かったように思います。

男子団体のベスト4は、戦前からある程度予想がつきました。決勝へは石岡が出てくると思ったんですが、比叡山が春から急速に伸びて、地元ということもあってよくがん張りました。春の時点では石岡の方が上と見ていましたが、近藤君などを中心に成長したと思います。戦前では、足羽が人数も揃っているし、もっとやると見ていました。日大山形もそうです。埼玉の越ヶ谷などのように、全国中学で活躍した県が、高校でもやはり上位にくるようになりました。

女子は、北田君一人に振り回されたというか、北田一色に塗りつぶされたといっても過言ではないような感じがします。一口でいうなら、徳田、植野以上の大物ということができます。

そのほか個人的に見るなら熊本中央の陣内君、リズム感もあるし、センスもあるし、パワーがつけば楽しみな存在です。石川金城の小路君もいい素質があります。

身コンビのパワー

さの高峯・陣内組

▼女子ダブルス3回戦

北田・冨田（四条畷学）2—0（遠野高）菊地・鈴木
川添・安武（熊本中央）2—1（中延学園）及川・杉山
高鴨・清藤（土佐女）2—0（佐賀女）森・岸川
植竹・目黒（小山城南）2—0（比叡山）西村・吉田
中田・池田（藤園女）2—0（吉原高）芦沢・佐野
原田・河原（園田学園）2—0（金沢向陽）村松・松井
倉見・辻（大津高）2—0（弘前南）柳谷・林
広川・板井（新潟中央）2—0（滝川西）桝田・竹川
岩見・磯野（比叡山）2—0（徳島商）泉・増金
小塚・和田（滝川西）2—0（横浜立野）高井・宮崎
藤井・遠藤（新潟青陵）2—0（聖ヶ丘ルスラ）西本・品川
植田・松田（四条畷学）2—0（山陽女）松島・天野
高峯・陣内（熊本中央）2—0（武庫川）松村・石崎
青山・福田（成安女）2—0（愛知淑徳）奥田・奥村
大野・平林（帝塚山）2—0（善通寺一）岡本・生田
小路・宮崎（石川金城）2—0（能代北）佐藤・田中

▼同4回戦

北田・冨田 2 — 15—3, 15—4 — 0 安武・川添
高鴨・清藤 2 — 15—10, 15—4 — 0 植竹・目黒
原田・河原 2 — 15—3, 15—5 — 0 池田・中田
倉見・辻 2 — 15—6, 15—8, 15—6 — 1 板井・広川
岩見・磯野 2 — 15—13, 15—11 — 0 和田・小塚
植田・松田 2 — 18—17, 15—5 — 0 遠藤・藤井


優勝の北田・冨田組

▼同準々決勝

高峯・陣内 2 — 15—8, 15—11 — 0 福田・青山
小路・宮崎 2 — 17—14, 15—0 — 0 平林・大野
北田・冨田 2 — 15—5, 15—10 — 0 清藤・高鴨
原田・河原 2 — 15—4, 15—7 — 0 辻・倉見
植田・松田 2 — 15—1, 15—9 — 0 磯野・岩見
高峯・陣内 2 — 15—12, 15—6 — 0 宮崎・小路

▼同準決勝

地元の三羽烏、西村、磯野、岩見君もよくがん張ったし、渋川の野口君などもいい選手ですね。成安の青山君も小さいながら健闘したし、園田の原田君も柔らかなセンスあるバドミントンを見せてくれました。

男子は、根性の権藤君、うまさの馬場君、そして熊商大付の井上君、今市の小野口君などが目立っていました。ベスト4の坂井、村本君も力を出したと思います。

権藤君の優勝は、この大会でも素質的には権藤君以上の選手は多かったと思えるのに、それを打ち破ったということを素直に評価して賞讃しなければなりません。〝偉い〟と思います。馬場君は、技術的に高校生には見られないような、シャトルのスピードを殺してネットに持っていくというように、剛と柔の使い方、速い球と遅い球の使い方に素晴らしいものがありました。井上君も、日本人離れした手首の柔らかさを持った素晴らしいプレーヤーですね。

そして上位には進出しなかったけれど、瓊浦の石場

'79 インターハイ

北田・冨田組、長

来年に期待、若

北田 冨田 2 (15—10 15—6) 0 原田 河原

高峯 陣内 2 (15—8 15—2 9—15) 1 植田 松田

▼同決勝

北田 冨田 2 (15—1 15—0) 0 高峯 陣内

（北田・冨田組は初優勝）

四条畷の植田・松田組の活躍により、あわや決勝は四条畷同士の対戦になりそうな気配を見せたが、熊本中央の高峯・陣内が終始積極的な動きで逆転勝ちを収め準決勝を勝ち上がった。

一方、優勝候補の筆頭、四条畷の北田・冨田組は、一回戦からまったく危なげなく勝ち進んだ。

長身ペアの北田組は、高い打点からパワーのあるストロークを繰り出し、安定感は随一。

好ゲームを予想された決勝も、高峯組が極度に緊張し過ぎた感で自滅、ワンサイド・ゲームになってしまった。

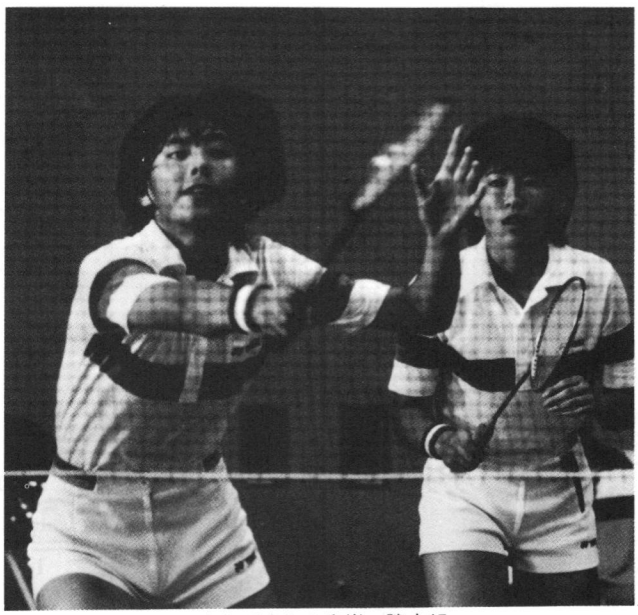
1・2年生の若いコンビが、北田というネームバリューに押しつぶされたのか、まったく力を出さずに敗れたのは残念、来年のチャンスに期待したい。

ベスト4入りを果たした、園田学園の原田・河原組は、後半素早いタッチからのスマッシュ、ドライブでよく追い上げたが、結局これも北田組のパワーに力負けといったところか。

植田・松田組も、4回戦で強敵、藤井・遠藤組（新潟青陵）を倒してベスト4は立派。

小路・宮崎（石川金城）組の力感溢れるプレー、終盤バテ気味だったがよく走った岩見・磯野（比叡山）組などの活躍が印象的だった。

準優勝の高峯和子・陣内貴美子選手の話……決勝までの調子は良かったのですが……。（決勝戦があっけなく終ってしまったのが残念そう）準決だけはどうしても勝ちたかったので（全精力を使い果たしたという表情）。大会前はベスト8が目標でした。団体戦の成績がよくなかったので、個人戦でがん張ろうと思いました。



来年が楽しみ高峯・陣内組

君、日大山形勢、女子の新潟青陵の野上君、千葉学園の藤永君など、2年生に素質のある選手が揃っていたようです。

現在は、以前のように3年生が絶対的に強いということがなくなって、中学校が盛んになったおかげで学年の差が縮まってきました。関連しますが、昔の伝統校より中学の盛んな県の台頭が目立ちました。特に男子にはその傾向が著しいように思います。

逆に女子は、伝統校の勢力が依然として強いようです。

女子の場合、早く四条畷を破るようなチームが出てきて欲しいし、混戦の続く男子は、四条畷のような強力チームの進出を望みたい気がします。

（日本体育大学監督）

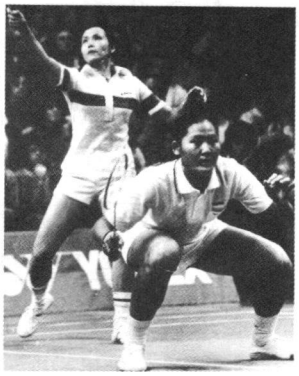


関根義雄氏

ヨネックス＝パシフィック・インターナショナル・トーナメント

Yonex＝Pacific International Badminton Tournament

各国のトップ・プレーヤーがオークランドで熱戦



湯木シングルスで優勝、銭谷はダブルスで準優勝

ヨネックス＝パシフィック・インターナショナル・トーナメントは去る6月13日から17日まで、ニュージーランド・オークランドのバドミントン・ホールで行われた。

日本からは銭谷欽治、湯木博恵、近藤小織の三選手が参加し、女子シングルスで湯木が優勝、男子ダブルスではスヴェン・プリ（デンマーク）と組んだ銭谷が二位に進出した。

結果は次のとおり。

◆男子シングルス

▽予選ラウンド勝者＝ハリヤント(I)、プリ(D)、銭谷、ウイルソン(N)、ジョリー(E)、カルトノ(I)、リビングストン(N)、ダニー(I)

▽決勝ラウンド

ハリヤント 2 — 0 ウイルソン（17—15、15—12）

プリ 2 — 0 銭谷（17—14、15—7）

ダニー 2 — 1 ジョリー（15—1、14—17、15—6）

カルトノ 2 — 1 リビングストン（15—8、6—15、15—12）

▽準決勝

プリ 2 — 0 ハリヤント（15—1、15—4）

ダニー 2 — 1 カルトノ（15—1、15—6、11—15）

▽三位決定戦

ハリヤント 2 — 0 カルトノ（15—5、15—5）

▽決勝

プリ 2 — 1 ダニー（18—13、4—15、15—8）

◆女子シングルス

▽予選ラウンド勝者＝イバナ(I)、ブリッジ(E)、湯木、ベラワティ(I)

▽準決勝

イバナ 2 — 1 ベラワティ（11—6、3—11、11—8）

湯木 2 — 0 ブリッジ（11—8、12—9）

▽三位決定戦

ベラワティ 2 — 0 ブリッジ（11—4、11—7）

▽決勝

湯木 2 — 0 イバナ（11—8、11—9）

◆男子ダブルス

▽予選ラウンド勝者＝カルトノ・ハリヤント(I)、ロブソン・スケルト(N)、プリ(D)・銭谷、リビングストン・ウイルソン(N)

▽準決勝

カルトノ / ハリヤント 2 — 0 リビングストン / ウイルソン（15—10、15—7）

プリ / 銭谷 2 — 0 ロブソン / スケルト（18—13、15—7）

▽三位決定戦

リビングストン / ウイルソン 2 — 0 ロブソン / スケルト（17—14、15—9）

▽決勝

カルトノ / ハリヤント 2 — 0 プリ / 銭谷（15—12、15—9）

◆女子ダブルス

▽準決勝

イメルダ / ベラワティ(I) 2 — 0 シントン / エアツェグ(N)（15—3、15—2）

湯木 / 近藤 2 — 1 ブリッジ / イバナ(E)（17—16、10—15、15—4）

▽決勝

イメルダ / ベラワティ 不明 湯木 / 近藤

〔主な選手の横顔〕

スヴェン・プリ いうまでもなくデンマークの暴れん坊。75年全英チャンピオンなど輝やか

しい成績の持ち主。

ケビン・ジョリー　イングランド2位のハード・ヒッター。

ダニー・サルティカ　インドネシア・ナショナル・チームのサウスポープレーヤー。今年の全英でも銭谷が苦杯を契している。

ハリヤント、カルトノ　二人ともこれからのインドネシアを代表するプレーヤー。

ロス・リビングストン　ニュージランド・チャンピオンと同時にオーストラリアのタイトルも保持している。

スティーブ・ウイルソン　ニュージーランド・ナショナル・チームのメンバー。トマス杯選手にも三回選ばれているベテラン。

グレアム・ロブソン　20歳のニュージーランド期待の星。今回のトマス杯選手であり、ヨーロッパ遠征にも派遣されている。

ナイジェル・スケルト　ロブソンとともにニュージーランド期待の22歳。オーストラリアも含めて多くのジュニア・タイトルを獲得している。

ベラワティ・ウィハルジョ　日本でも人気のあるインドネシアチャンピオン。79年全英ダブルス・チャンピオン。

イメルダ・ウィジョノ　インドネシアきっての名ダブルス・プレーヤー。ベテワティと組んで79年全英に優勝し、混合ダブルスでもクリスチャンと組んで優勝している。

イバナ・リー・イン・ホー　インドネシアが大きな期待を寄せている19歳の選手。

カレン・ブリッジ　イングランド・ランキング三位。19歳。イングランド21歳以下チャンピオン。

アリスン・シントン　ニュージーランド・ダブルス・チャンピオン。ユーバー杯選手。

フランシス・エアツェグ　71年からニュージーランド代表として各種国際大会に出場しているベテラン。

オークランド・バドミントン・ホール



新入部員必読の書!!

小島一平著

ガッツ!!バドミントン

――限りなき挑戦

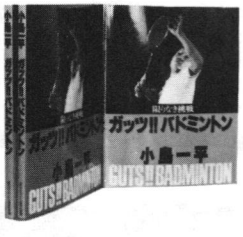
第11回トマス・カップ・インターゾーンが行なわれたジャカルタでのこと。現地のファンは口々に「イッペイ・コジマはどうして来ないのか」「彼は元気か」「イッペイ・コジマのプレーは今でもよく覚えているよ」等々、われわれに質問を浴びせてきた。

それほど小島一平の名前は世界的に知られている。

本書は、その小島一平のすべてをさらけ出したものである。体当たり半生記、実戦アドバイス、わがライバルたち、の三部から構成され、巻末には主要大会記録・ルールも収録されている。

新入部員の皆さんにとっては、今すぐ役立つものであり、インターハイ、全国中学等の大会を控えて、ぜひお読みいただきたい書である。

ご希望の方は、本誌巻末とじ込みの振替用紙の「その他」の欄に「ガッツ・バドミントン」と明記のうえ、定価2000円と送料240円を添えて、お近くの郵便局からお申し込みください。　バドミントン界編集部



◆日本図書館協会選定図書

おなじみ 年に一度の 特別謝恩セール

9月26日(水)～9月30日(日)

季節はめぐり、またまたやってきました。ごひいきありがとうの心をこめておなじみ年に一度の「特別謝恩セール」。今年もさらに充実、お楽しみあり、割引きあり——ウインザーのパワーが爆発する5日間！池袋店も加えてウインザーラケットショップ4店で同時開催。友だち誘って早目にくりこもう!!

★お楽しみスピードくじ

空くじなし。何が当るかお楽しみ。期間中に3,000円～10,000円お買上げの方に1回、10,000円以上お買上げの方には2回——スピードくじのチャンスをさしあげます。ラケット、バッグ、ウェアなどはもちろん、テニス用品以外のすてきな景品が必らず当ります。
※なお、特別割引品・バーゲン品・ボール・シャトルは対象外とさせていただきます。



★超特価大奉仕バーゲン・コーナー

品物を限定。そのかわり値段を思いっきり安くしてご提供しようというのがこのコーナー。ラケット・シューズ・ボール、秋物を中心としたウエアなどテニス・バドミントン用品がずらり。値段を見てびっくりの超特価ばかり！　思わずひとつ、ふたつと手が出てしまう感じ。早目に出かけて、お好みの品をじっくりと選んでください。
※なお、限定奉仕のため品切れが考えられます。そのときはご容赦ください。

★ウインザーならではの特別割引コーナー

以前から欲しいと思っていた品や、まとめ買いをしたい品など……日ごろの夢がかないます。感謝の心をこめてお届けする一流品の特別割引！どんな品がどれだけ安くなるかな？
※なお、この特別割引品は期間中に限らせていただきます。

日本最大のテニス・バド専門店
WINDSOR RACKET SHOP

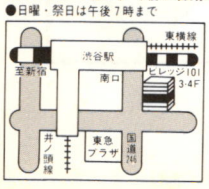
信頼のマーク WINDSOR

ウインザー ラケットショップ。

渋谷店

毎月曜日定休・祝祭日を除く

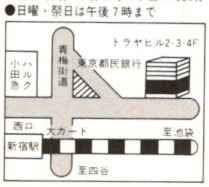
東京都渋谷区桜ヶ丘町1-7（ヒレッジ101ビル3・4階）TEL 03-464-9251～2 〒150
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



新宿店

毎月曜日定休・祝祭日を除く

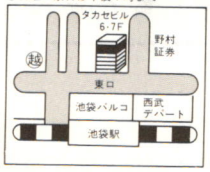
東京都新宿区西新宿7-10-20（トラヤビル2.3.4階）TEL 03-363-6848 〒160
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



池袋店

毎月曜日定休・祝祭日を除く

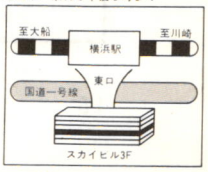
東京都豊島区東池袋1－1－4（タカセビル6・7階）TEL 03-989-0401 〒170
●営業時間／午前10時～午後7時30分
●日曜・祭日は午後7時まで



横浜店

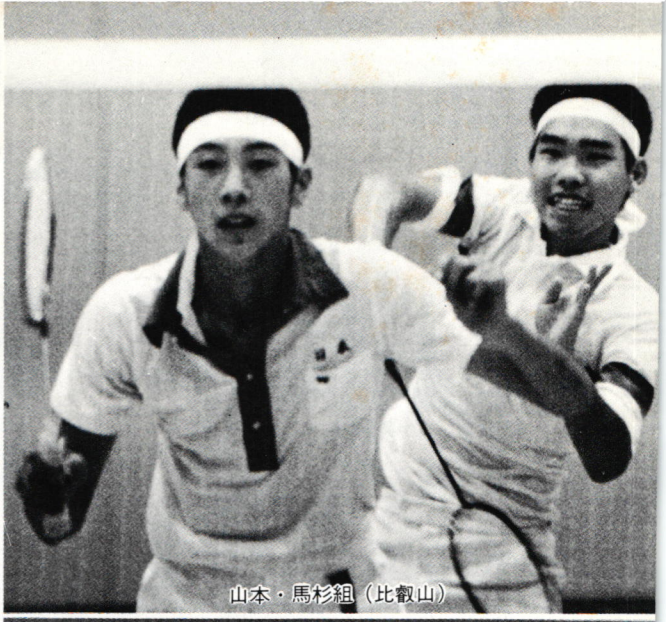
年中無休

横浜市西区高島町2－1　横浜駅東口（スカイビル3階）TEL 045-453-1785 〒220
●営業時間／午前10時～午後8時
●日曜・祭日も午後8時まで





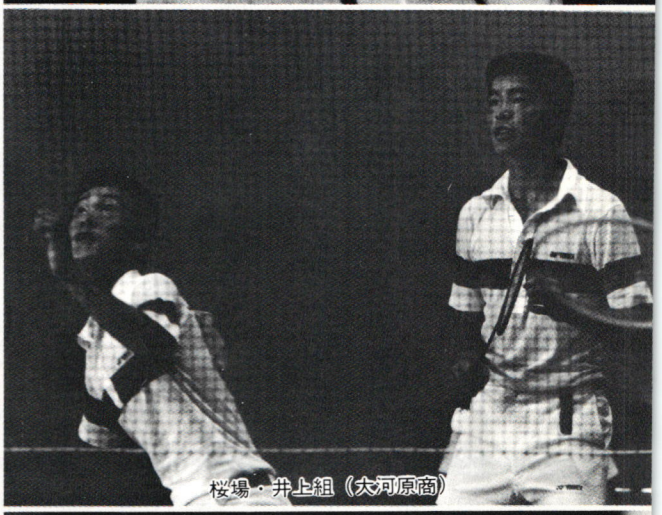
坂井・金谷組（金沢市工）



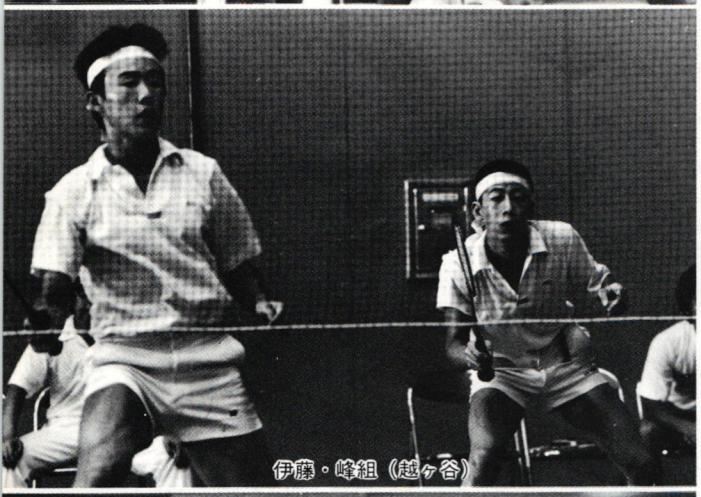
山本・馬杉組（比叡山）



近藤・藤野組（比叡山）



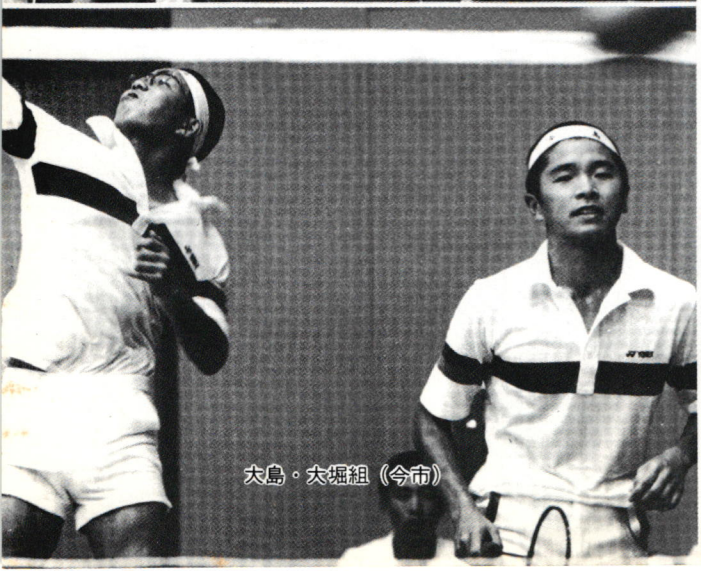
桜場・井上組（大河原商）



伊藤・峰組（越ヶ谷）



鈴木・田中組（東奥義塾）



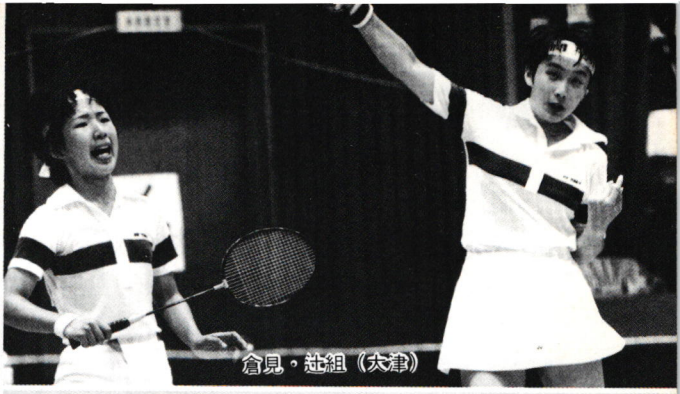
大島・大堀組（今市）



飯野・朝香組（石岡第一）

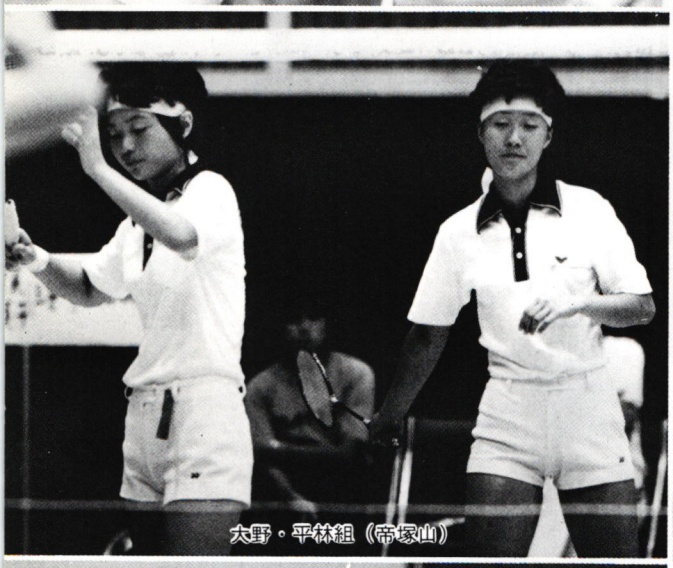


藤井・遠藤組（新潟青陵）

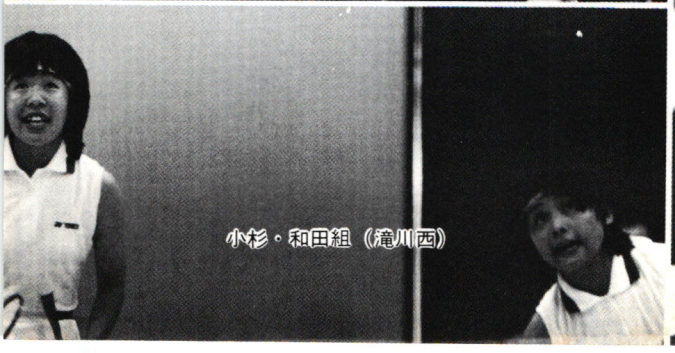

倉見・辻組（大津）


佐藤・田中組（能代北）


原田・河原組（園田学園）


大野・平林組（帝塚山）


国奥・高山組（高岡高）


小杉・和田組（滝川西）


植田・松田組（四条畷）

YONEX®

ボディの美しさから出発した、主張のあるスポーツウエア。
単にかたちだけに流れず、単に機能だけに片よらない、新しい発想のスポーツウエアの誕生です。デザインは、あの三宅一生。このほかヨネックスには、オリジナルなスポーツウエアや、日本バドミントン協会推薦のスポーツウエアをずらりそろえています。

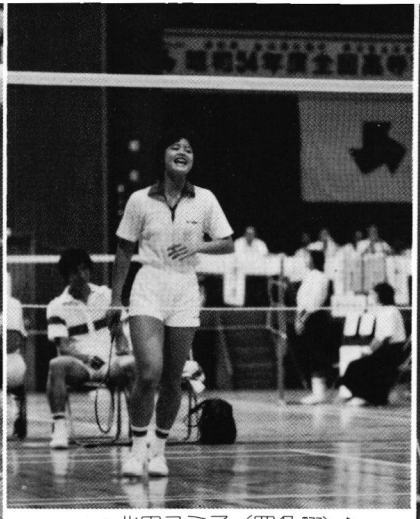
プレイヤーの声から、使いやすさをカタチにしたバッグ達。
ヨネックスのスポーツバッグの大特徴は、それぞれのデザインに、用途別にセブン・スリー・ワンと3種類あること。長期遠征用・短期遠征用・当日大会用と使いわけることができます。バッグにT.P.O.を持ちこむなんて、ヨネックスならではのアイデアとは思いませんか。ともかく、ヨネックスでかためると強い。

ヨネックスを着る。
ヨネックスを持つ。
勝てそうだぞ。

Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）



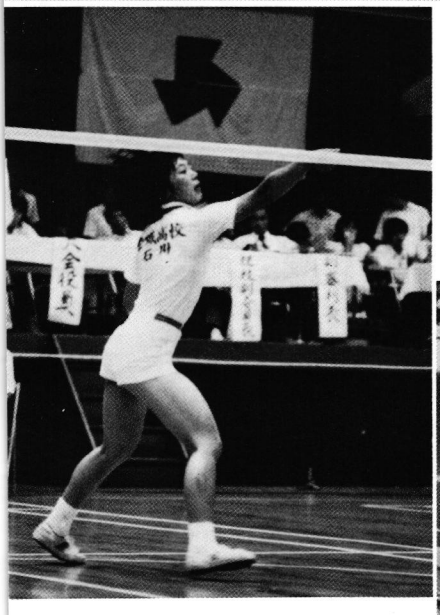




▲北田スミ子（四条畷）▶



▲
◀小路和代（金城）

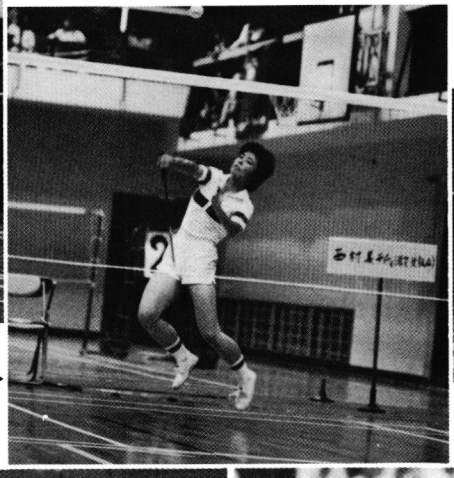


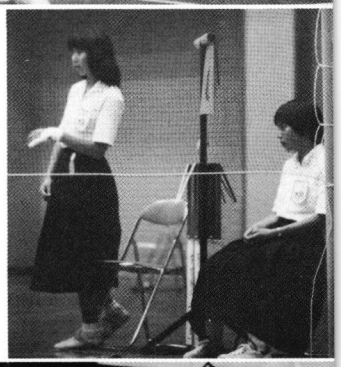
西村美千代（比叡山）▶

▼木内・田口（石岡一）

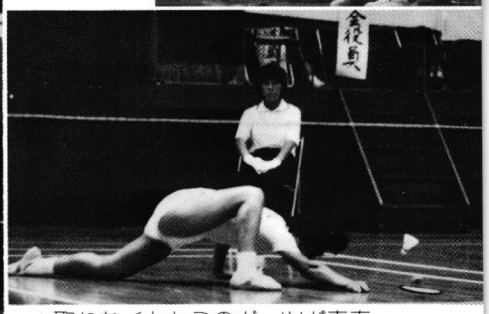
☆読者が撮ったインターハイ

大阪市・川崎光典さん





▶役員の皆さんお疲れさま!!



▲取れなくともこのガッツが青春

▼貴田・古賀（正強）





kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



選択の時代は終った!

kawasaki Badminton

数あるバドミントン・ラケットの中
カワサキ製品は
ひとり群を抜いた。永い独走が始まる。





グラファイトシリーズ
世界初のオールグラファイトラケット
エイトシックス
グラファイトフレーム　グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円

子供らしさを重視 福岡県の旗手を目指して

海老津バドミントン・クラブ

われらのクラブ㉑

私たちのクラブが発足したのは、当時この辺りにはバドミントンのバの字も見当らない昭和49年7月1日のことです。

〝海老津〟というのは、この福岡県遠賀郡岡垣町にある日豊本線の駅名から採ったもので、正式には「岡垣町バドミントン・クラブ」といいます。

ご存知のように、福岡県はバドミントンのレベルの低い県で、国体などに出場した経験から、全国と対等に戦うためには年齢の低いチビッ子を鍛えなくてはならない、と痛感した訳です。

そこで、経験者を3名ほど集め一般のクラブを創り、「海老津バドミントン・クラブ」のスタートとなったのです。

1年目のクラブ員が17名、その中の10名が1年後、デモンストレーションとして小学校巡りをしたのです。

まず小学校で模範試合をして、拍手喝采を浴びている間に「今度、バドミントンのジュニアのクラブを作るが、入らないか?」と口説いて回りました。

現在ではママさん20名、一般35名、ジュニアが60名と、岡垣町では剣道に次いで二番目に盛んな競技となりました。

ジュニアが試合に出るようになったのは3年前から、昨年は初めて県代表を送り出し、今年も男女とも全国中学て出場する選手がいて、来年は是非とも福岡県の上位を独占したいものだと思っています。

クラブ員の中には、一家そろってバドミントンを愛好する家庭や、現在進行中のカップルを含めて4組ものカップルが誕生するなどバラエティに富んでいますが、ママさんにはレクリエーション的な楽しさと井戸端合議の仲間を増やすなど、楽しむことを目的としてもらえれば十分ですし、一般の人には競技者としての厳しさを持ちながら、社会人としてエンジョイしてもらい、ジュニアには百パー



福岡にもバドミントンの波が!!



セント、プレーヤーとしてがん張ってもらうというのが、私たち「海老津クラブ」の方針なのです。

できれば、このジュニア達の中から高校、大学とバドミントンを続ける子が出てくれると、こんなに嬉しいことはないのですが、ただ単に強い選手を育てるのではなく、子供の心を持った、小学生は小学生らしさ、中学生は中学生らしさを失なわないプレーヤーに育てたいと思っています。

ややもすると、強くなるだけが目的となって、人間性の乏しいプレーヤーになりがちなのを防ぐため、我が「海老津クラブ」では、上級生になると下級生とコンビを組ませ、マン・ツー・マンで指導をさせ、責任を持って下級生の面倒を見るようなシステムにしています。

「強ければ強いなり、弱くても弱いなりにに個性を伸ばしていこう」というのがコーチ陣の一致した意見、スポーツマンとしてはもとより人間味豊かに成長して欲しいと願っています。



目下のところ、クラブ運営も順調そのもの、今度の全国大会の派遣選手には、クラブ費から一部を援助して個人の負担を軽くするようにしていますし、名簿や会則などもきちんとそろっているし、組織的にもシッカリしていると自負しています。

悩みといえば、地元の高校にクラブがないことで、せっかく小学生から続けていたものができなくなってしまうことです。

やはり、高校へ行っても、大学へ行っても続けてもらいたい、またそういった選手を育てることが夢でもあるわけです。




Flemming Delfs
フレミング・デルフス（デンマーク）
興奮する。
YONEX®



いま、世界は95gに

なんと100g以下のフルカーボンシャフトラケットの登場。世界で最軽量のラケット、カーボネックス8です。フレームは特殊アルミ合金。シャフトはフルカーボン。強烈なパワーを秘めながらこの軽さは、まさに世界新。ヨネックスならではのクリエイティブです。いま、バドミントンプレイが二歩も三歩も前進します。このヒーローの登場で。

ラケット重量極限の壁をついに破った
FULL CARBON SHAFT RACKET

B-8500 Carbonex8

カーボネックス・エイト（3色 イエロー・オレンジ・グリーン）
重量表示　1-U（100g～95g）・2-U（95g～90g）



RSL VICKTOR

全国大会使用球に公認。

ヘアピンショットを可能にしたナイロン球

全英大会の公認球として世界的に有名なRSL。このRSLが開発したナイロンシャトル《RSLビクター》が、いまプレーヤーの間でたいへんな評判。これまでナイロン球の限界といわれてきたヘアピンショットを、この《ビクター》は、水鳥球と同じ飛行で打つことができます。シャトル革命を予測させるナイロン球による自在なネットプレー——世界中のプレーヤーが拍手で迎えました。

学生プレーヤーに朗報！

このRSLナイロンシャトル《ビクター》が、全国中学生大会の使用球として日本バドミントン協会の公認を受けました。続けて、高校・大学・一般の大会へとその輪が広がっていくことが予想されています。

性能が水鳥球に匹敵するばかりか、耐久力と打球感ではそれをはるかにしのぐこのRSL《ビクター》。とくに練習量の多い学生プレーヤーにとっては魅力といえましょう。

ゴーセンでは、このRSL《ビクター》を一手に販売。日本のプレーヤーにお届けしています。練習・試合にぜひお試しください。

No.256 RSLビクター

10個　¥2,450

全国中学大会公認使用球

日本バドミントン協会検定合格球

●7月号ウインテックスワイヤーモニター当選者名

福島県 五十嵐平吉　埼玉県 宮下良彦　東京都 島田幸雄
静岡県 益邑　勲　三重県 山口　香　大阪府 宮島豊文
兵庫県 中村隆弘　鳥取県 石田　毅　山口県 丸川信正
山口県 吉田紀代美

GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎ (06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎ (03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎ (092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎ (0762)47-0200(代)





オールカーボンシャフトとウッドフレームによる

世界初の超軽量

XL級 105g～109g

コンピュータとキャリアが生み出した
100％カーボン・ロングテーパーシャフト
軽さと強さをかねそなえた
スーパーラケットの登場！

Carbon Slugfest

カーボンスラッグフェスト　B-85・B-80

日本バドミントン協会推奨

■プレーヤー待望のパーフェクトラケット完成

より高度に、そして多彩になっていくバドミントンのプレーテクニック。そのすべてのプレーに一本のラケットがパーフェクトに対応します。ゴーセンが開発した100％カーボン・ロングテーパーシャフト『カーボン・スラッグフェストB-85・B-80』。プレーヤーの強い要望に応えた理想のラケットの登場です。

■電子頭脳が答えた理想の構造

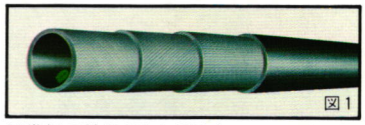


図1

20世紀の科学が生んだ最高のラケット素材《カーボン》。このカーボン繊維を、ラケットの生命といわれるシャフト部分に使用。この素材特性をいちばん効果的に発揮させるため、図①のように方向の異なる繊維を3層に組み合わせました。この構造図式は、理想のラケットを創り出すという前提のもとに、コンピュータがはじき出した答えです。

さらにもう一歩理想に近ずくため、この構造によるシャフトのロングテーパー化をコンピュータは指示しました。

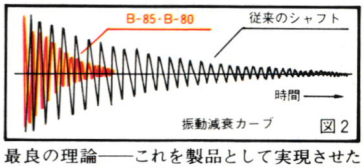


図2

最良の理論――これを製品として実現させたのはゴーセンの技術力。カーボン究極の特性を安定して確保し、世界でも類を見ない100％カーボン・ロングテーパーシャフト化に成功しました。

■カーボン・ラケットの決定版

細部にわたる測定テスト。このB-85・B-80はすべての点で他のカーボン・ラケットをしのぎました。カーボンの特性をこれほど完璧にいかしきったラケットは見当りません。



■B-85・B-80の特色

- 超軽量XL級(105g～109g)
- 高反発／高弾性（強く、鋭い打球）
- 高強度(優れた耐久性)
- 迅速な振動減衰性（打球後のラケットの安定。図②参照）
- 高応答性(打球の手応え)まさに長所総づかみ。カーボン・ラケットの決定版！堂々と登場です。

カーボンスラッグフェスト
B-85(黒)・B-80(白) ¥7,500

- バンブー・ウッド合板
- 100％カーボン・ロングテーパーシャフト
- カバー付



●7月号B-85・B-80モニター当選者名

岩手県	村田早苗	東京都	鈴木俊幸	東京都	吉井通康
愛知県	近藤真理子	三重県	平敷健則	大阪府	谷　逸平
兵庫県	石塚英二	鳥取県	浜田頼伴	山口県	中原弘子
高知県	和田浩一				

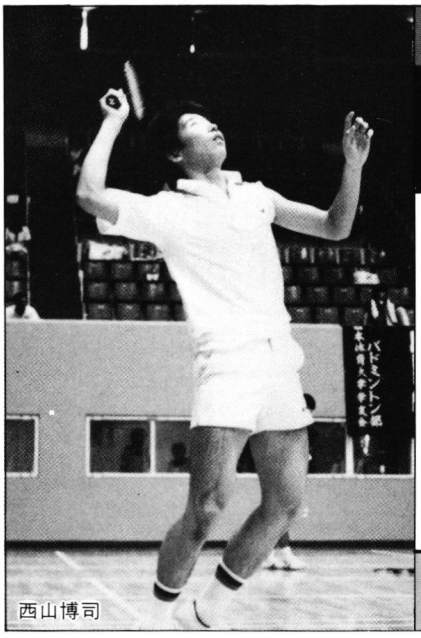
GOSEN

本　　社●〒540 大阪市東区豊後町4　☎(06)942-5816(代)
東京支店●〒111 東京都台東区蔵前4-14-2　☎(03)862-6576(代)
福岡営業所●〒810 福岡市中央区薬院1-4-8　☎(092)712-5247(代)
北陸営業所●〒921 石川県金沢市横川7-22　☎(0762)47-0200(代)

第22回東日本学生バドミントン選手権大会

西山、底力の三冠王

藤井、暑さを吹き飛ばす快勝


西山博司

第22回東日本学生バドミントン選手権大会は、8月9日から14日までの6日間、山形県体育館において開催された。

今大会から新たに団体戦が設けられ、男子は中央大学が、女子は日体大が順当に初優勝を飾った。

個人戦も、冨田（法大4年）高岸（東女体4年）らが欠場したものの、ほとんどの有力選手がエントリーし、密度の濃い戦いが連日繰り広げられた。

団体戦が加わったために、タイムテーブルがきつく、「これでは体がもたない」という、理由にならない愚痴をこぼして敗れ去った選手を押しのけ、西山（中大2年）が、三冠王に輝いた。

男子シングルスは、「西山の行くところ、タイトルあり」という西山時代の到来を、ますます強く印象づけた。またベスト4進出を果たした宮森（法大4年）浅沼（日体大4年）北橋（日体大3年）らの迫力ある攻撃型プレーヤーの台頭も見逃せない。飄々たるプレーの小倉（青学大4年）もベスト8入りを果たし、ダブルスの不振をシングルスで補った形になった。

男子ダブルスは、冨田・酒井（法大4年）が不出場のため、やや迫力に乏しい試合内容ではあったが、ここでも吉岡・西山（中大4年・2年）上原・宮本（中大3年・2年）のペアが、巧さを誇る、水内・平野（早大4年・3年）坂本・田村（日大4年）を打ち破り、シングルスと共に、「剛」よく「柔」を制した今大会であった。

女子シングルスは石田（日女体4年、前年度インカレチャンピオン）が、山本（筑波大3年、今年度関東選手権優勝）を破り、貫録を示したものの、ベスト4入りで柴田（東女体3年）に苦杯を喫する番狂わせとなった。その中で藤井（日体大3年）がシングルスで初のタイトルを獲得した。比較的組み合わせに恵まれてはいたものの、ダブルスの感覚をシングルスに取り入れた速いフットワークと、丁寧なプレースメントで、決勝では、枝（日体大3年）を難なく降した。また浜田（東女体2年）がベスト8に顔を見せ、着実に力をつけてきているのが注目された。

女子ダブルスは、柴田・川島（東女体3年・2年）を巧みにかわした石田・渡辺（日女体4年）と新鋭土田・笠松（東女体2年・1年）との間で決勝となったが、サウスポー笠松のクロススマッシュをよく拾った石田・渡辺組が押し切った。土田の巧いリードと、笠松の打点の高いスマッシュで決勝まで進んだ功績は、大いに称えられよう。それにひきかえ、藤井・松枝組、柴田・川島組の不振は、どうしたことだろう。

インカレの次にランクされるこの東日本大会だが、全体的にいまひとつ盛り上がりを欠くのは、どこに原因があるのであろうか。その打開案として、インカレの出場資格枠を今より倍増させることで、選手の出場意欲をかきたてる方法が挙げられよう。これは、今後の課題であるが、早急に対応策を講じる必要があろう。

（学連・野口）

◇男子団体

▼準決勝

日本大学 3—2 早稲田大学

四家	15	15	稲垣	稲垣	15	11	石黒
稲垣	18	17	岩渕	0	2	0	0
坂本	15	12	15	2	平野		
田村	15	18	15	2	高橋		
稲垣	5	5	15	15	石黒		
0	2	1	2	2	2		

坂本 2 (15-15-1) 0 岩渕
日比野 2 (15-15-12-7) 0 平野
中央大学 3—1 日本体育大学
吉岡 2 (15-15-3-9) 0 北橋
西山 2 (15-15-9) 0 本郷
上原 2 (15-15-9-7-15) 1 若生 山本
多田 (打ち切り 18-7-15) 北橋
細谷 2 (15-15-8-8) 0 鎌田
西山 (打ち切り) 坂井

▼決勝
中央大学 3—1 日本大学
吉岡 2 (15-17-15-12-15) 0 坂本
西山 2 (15-15-12) 0 四家
上原 2 (15-15-4-2) 0 稲垣
宮本 2 (15-15-4-2) 0 伊藤
細谷 0 (2-12-15-15) 2 坂本
西山 2 (15-15-9-6) 0 日比野
多田 (打ち切り) 稲垣

▼三位決定戦
早稲田大学 3—0 日本体育大学
石黒 2 (15-15-4-10) 0 鎌田
高橋 2 (15-15-4-10) 0 北橋

水内 平野 2 (15-15-6-5-9-15) 1 山本 若生
石黒 2 (15-17-16-7-9-15) 1 北橋
平野 (打ち切り) 鎌田
水内 (打ち切り) 坂井

◇女子団体
▼準決勝
日本体育大学 3—0 青山学院大学
藤井 松枝 2 (15-15-1-4) 0 彼島 大内
枝 横田 2 (15-17-15-8-15) 0 松本 山菅
藤井 2 (11-11-8-7) 0 彼島 高野 (打ち切り) 山田
枝 (打ち切り) 松本
東京女子体育大学 3—1 日本女子体育大学
柴田 川島 2 (15-15-4-0) 0 高峯 小野
工藤 水野 0 (7-8-15-15) 2 渡辺 石田
浜田 2 (11-12-7-10) 0 青木
柴田 2 (11-11-7-6) 0 豊田

▼決勝
日本体育大学 3—1
工藤 (打ち切り) 石田

中沢 高野 2 (15-9-15-7-15-12) 1 工藤 水野
藤井 松枝 1 (6-15-15-9-12-15) 2 柴田 川島
枝 2 (11-12-3-11) 0 浜田
高野 2 (11-11-8-7) 0 柴田
藤井 (打ち切り 6-11-10-2) 工藤

▼三位決定戦
日本女子体育大学 3—0 青山学院大学
高峯 小野 2 (15-15-8-4) 0 松本 山菅
石田 渡辺 2 (15-15-1-4) 0 彼島 大内
青木 2 (11-11-9-7) 0 山田
渡辺 (打ち切り) 松本
石田 (打ち切り) 大内

◇男子シングルス
▼準々決勝
北橋 (日体大) 2 (15-15-11-6) 0 石黒 (早大)
浅沼 (日体大) 2 (15-15-12-5-10-15) 1 小倉 (青学)

宮森 (法大) 2 (15-15-12-6-9-15) 1 坂本 (日大)
西山 (中大) 2 (15-15-5-4) 0 細谷 (中大)
浅沼 2 (15-15-11-7) 0 北橋
西山 2 (15-15-9-10) 0 宮森

▼準決勝
▼決勝
西山 2 (15-17-7-15) 0 浅沼
宮森 2 (15-15-3-8-13-15) 1 北橋

▼三位決定戦
柴田 (東女体) 2 (11-4-11-7) 1 石田 (日女体)
枝 (日体大) 2 (11-11-6-1-11-12) 1 豊田 (日女体)
藤井 (日体大) 2 (11-11-0-3) 0 長尾 (日女体)
渡辺 (日女体) 2 (11-12-3-11) 0 浜田 (東女体)

◇女子シングルス
▼準々決勝
▼準決勝
枝 2 (11-11-8-8) 0 柴田

藤井 2 (11-11-5-3-11) 1 渡辺
▼決勝
藤井 2 (11-11-1-5) 0 枝

▼三位決定戦
渡辺 2 (11-8-11-4-11-5) 1 柴田

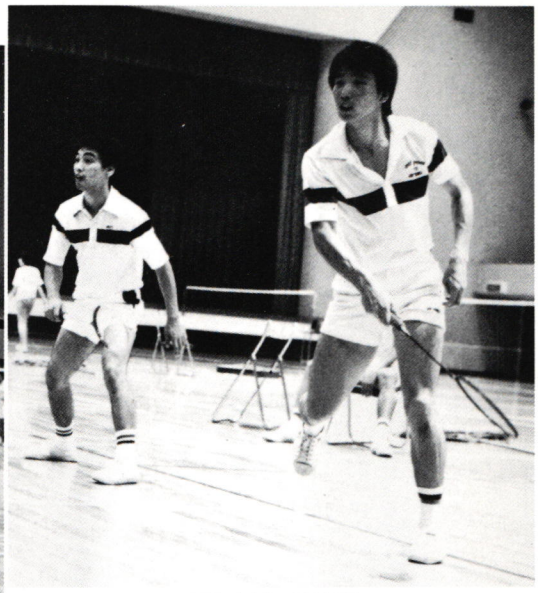
◇男子ダブルス
▼準々決勝
水内 平野 2 (15-15-12-7) 0 丹藤 楠美 (法大)
上原 宮本 2 (15-15-11-1) 0 四家 稲垣 (日大)
吉岡 西山 2 (15-18-8-16) 0 山本 若生 (日体大)
坂本 田村 2 (15-15-6-5) 0 森 大石 (日体大)

▼準決勝
上原 宮本 2 (15-15-11-4-11-15) 1 水内 平野
吉岡 西山 2 (15-15-13-15-5-7) 1 坂本 田村

▼決勝



柴田（左）・川島組



吉岡（左）・西山組

▼三位決定戦

吉岡 西山 2
(15—12 15—8 6—15)
1 上原 宮本

坂本 田村 2（キケン）
0 水内 平野

◇女子ダブルス

▼準々決勝

柴田 川島 2（東女体）
(15—12 15—12)
0 横田 枝（日体大）

石田 渡辺 2（日女体）
(15—11 15—10)
0 鹿野 山沢（日体大）

土田 笠松 2（東女体）
(15—10 11—12 15)
1 藤井 松枝（日体大）

中沢 高野 2（日体大）
(15—4 15—12)
0 田村 西村（日体大）

▼準決勝

石田 渡辺 2
(15—8 15—8)
0 柴田 川島

土田 笠松 2
(15—12 2—15 15—7)
1 中沢 高野

▼決勝

石田 渡辺 2
(15—11 12—15 15—4)
1 土田 笠松

▼三位決定戦

柴田 川島 2
(15—10 15—9)
0 中沢 高野

西山×浅沼

関東選手権に優勝している西山が、春の関東リーグ戦で、唯一黒星をつけられた浅沼と戦うという、因縁試合となった。

1ゲーム目、出足し互いに譲らず、ポイントを連取できずに6—6。西山のスマッシュに本来の当りがでず、体の切れも悪い様子である。

一方、浅沼にもいつものねばり強さがいまひとつ足りない。しかし、得意のネット前はするどく、西山を手こずらせている。両者一進一退のまま、ポイントは11—11と移動しない。数回のサービスオーバーの後、浅沼はラッキーなフレームショットで12—11と均衡を破る。そして一気に14—11とゲームポイントを握り、このまま逃げきるかと思われた。

ところが、ねばる西山は、浅沼のスマッシュミスなどで14オールと追いつく。ゲームはセッティングに入りようやく盛り上がりを見せてきた。西山の迫力あるスマッシュと、浅沼の絶妙なレシーブと、互いに持ち味を出し、西山2—1のリードでサーブオーバーの繰り返し。浅沼は、サービス権を持った時の攻めがもうひとつ甘い。結局、西山の押しの強さに浅沼がかぶとを脱いだかっこうで17—15と西山が先取。

2ゲーム目に入ると、目に見えて浅沼の動きがにぶくなる。またたく間に9—2と西山が引き離す。その後も甘くなった浅沼の返球に対し、西山がコーナーいっぱいにスマッシュを決め、確実にポイントを重ねていく。浅沼に反撃のすきを与えないまま15—7とゲームトーバー。関東選手権に続き、またしても栄冠は西山の手におさまった。

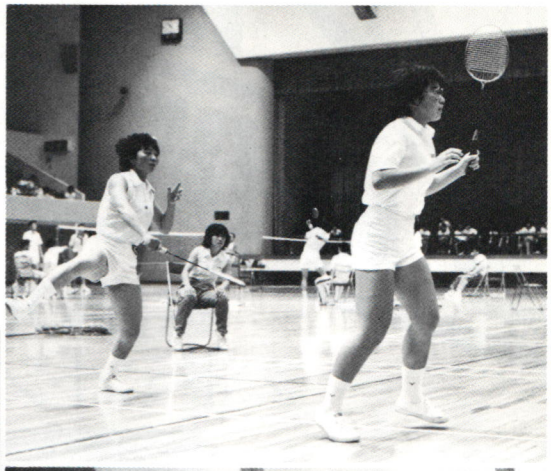
（学連・恩田）

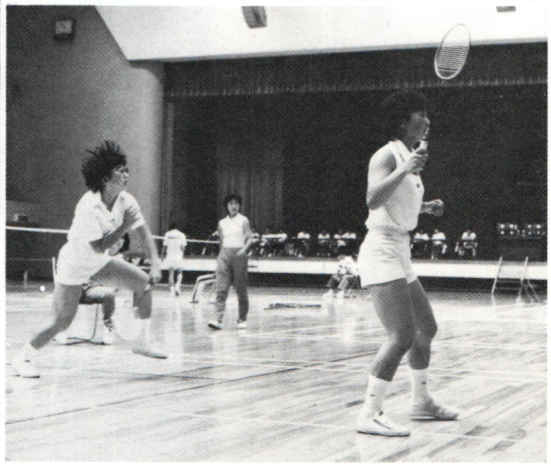
吉岡・西山×上原・宮本

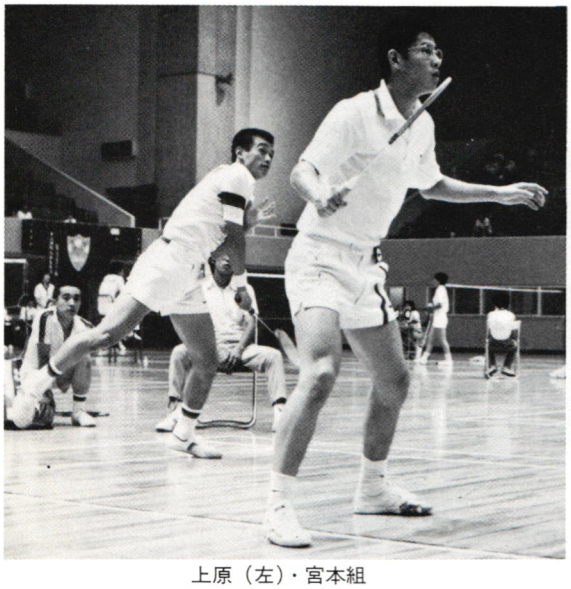
男子ダブルスの決勝は、中央大学同士の対戦となった。互いに、手のうちを知り尽くしている相手だけに、凡ミスが戦況を大きく左右することが予想された。

1ゲーム目、やはり両者ともつまらないミスが目立ち、互いの持ち味を十分に発揮できない。特に吉岡・西山組は、攻撃型のダブルスペアにもかかわらず、終始レシーブにまわり、自滅したかっこうとなった。

土田（左）・笠松組（上下とも）







上原（左）・宮本組

2ゲーム目、前半は上原・宮本組にリードを許した吉岡・西山組だが、中盤からは徐々にペースを取りもどし、本来の西山に打たせるという自分達のパターンが生きてきた。上原・宮本組のミスも手伝い、後半は一挙に逆転し逃げきった。

互いの持ち味を発揮し始めたのは、ファイナルゲームからで、終始シーソーゲームを展開した。吉岡・西山組の攻撃力に対し、上原・宮本組のレシーブも、まったくひけをとらない。後半山場の11―11のせり合いで勝った吉岡・西山組は、一気に14―12とリード。最後の一本は、気合いの入った長いラリー。このラリーをもぎとり、吉岡・西山組が優勝を決めた。

（学連・片岡）

石田・渡辺×土田・笠松

順当な決勝進出の石田・渡辺組に対し、ダークホース的在存であった土田・笠松の弱冠1・2年生ペアが、どこまで食い下がるか、非常に興味のある決勝戦となった。

1ゲーム目、さすがに貫録の差であろうか。石田・渡辺組が常に先手を取り、かたさの見える土田・笠松組は、持ち味を出さずじまいだった。

2ゲーム目に入ると、やっとかたさのほぐれた土田・笠松組は、1ゲーム目とはうって変わって果敢に攻めをしかけ、見どころのある好ゲームを展開した。ネット前では、常に石田・渡辺組より優位をとり、主導権を握った。スマッシュ、スマッシュと押しまくり、右きき・左ききペア独特の攻撃があたり、2ゲーム目を取った。

ファイナルゲーム、2ゲーム目と同じように、土田・笠松組の「攻」に対し、石田・渡辺組の「守」を中心とした展開となった。後半のせり合いから、いち早く脱した石田・渡辺組がそのまま逃げ切り、優勝を決めた。

ここ一番で力を出した石田・渡辺組が、実力的には一枚上の感はあるが、土田・笠松組の健闘も十分にたたえられよう。

（学連・土谷）



世界のトーアが贈る
バドミントンガットシリーズ



レオイナ　ホーン
LEOINA HORN S



グラファイト　レオイナ
GRAPHITE LEOINA 66



レオイナ　シープ
LEOINA SHEEP 66



トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

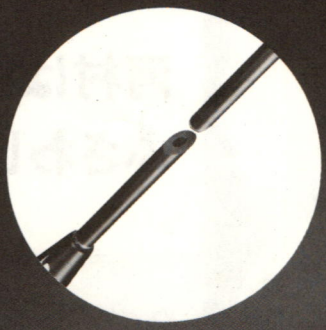


トーア　ストリングス
TOA-STRINGS SSW

東亜合繊株式会社

〒658 神戸市東灘区本山中町4丁目7番5号
電話 神戸 078 (441) 2001(代)～5番







CARBO DELUXII

S-79

新製品

カーボデラックスII

カーボデラックス同様、オールカーボンシャフトを使用し、特殊合金フレームをプラスして全て新しいタイプのラケットとして、ここに誕生しました。より軽くそしてよりスピーディでパワーフルな条件をすべて兼ね備えたまさに現在にマッチした、最高のラケットと云えましょう。あなたも最高のラケットでプレーしてみませんか？

CARBO DELUX

S-77

カーボデラックス

スチールカーボンシャフトとは違い、純然たるオールカーボンシャフトを使用。その弾力性は従来のスチールシャフトにないすばらしい反撥力を生みだし、多くの反響を呼んでおります。シャフトを若干太くすることにより左右のブレを解決していますので、アタックにレシーブにこの新しい魅力を十二分に発揮させて下さい。

SunBatta

昭和54年度関西学生バドミントン選手権大会


男子ダブルス優勝の西堀・吉兼

混戦の男子シングルスは気力充実の中村が制す

河村は第一人者にふさわしい連覇

合川・石田ら若手の活躍もめだつ

昭和54年6月12日より26日までの10日間、大阪府臨海スポーツセンター、大阪市立東淀川体育館において、第29回関西学生バドミントン選手権大会が行なわれた。

◇男子シングルス

▼準々決勝

西川（近大）	2	15—7 17—18 15—2	1	山本（大経大）
諸多（同大）	2	15—9 15—2	0	福富（神大）
中村（京産大）	2	15—13 15—10	0	西堀（近大）
安田（甲南大）	2	15—2 0—15 15—8	1	岡田（大経大）

▼準決勝

諸多	2	18—17 0—15 15—8	1	西川
中村	2	15—3 17—16	0	安田

▼決勝

中村	2	15—8 15—12	0	諸多

▼三位決定戦

安田2（キケン）0西川

前年度西日本大会シングルスチャンピオン、田島（大経大4年）の不参加もあり、優勝圏内の選手たちの気迫は相当なものであった。

準々決勝で決勝進出が確実視されていた西堀が中村に敗れ、一方第1シードの西川が準決勝で諸多に敗れるなどの波乱が相次いだ。

勝利の女神はいったい誰に微笑むのか——混沌とした展開となったが、決勝は共に優勝候補を破った中村と諸多の対戦となった。

第1ゲームはお互いに気合の入ったシーソーゲームとなったが、中村の執拗なレシーブに対し、諸多は多彩なショットを駆使したが攻めきれず、結局根負けという形で中村が先取。

第2ゲームに入っても中村の集中力は衰えるどころか、スマッシュにも一段とスピードが加わった。対する諸多は、準決勝でみせた粘りがなく、ついにストレートのスマッシュをクロスに切り返されて万事休す。これが中村の初優勝の瞬間であった。

今大会は例年よりも多くベスト8に4年生が6人も入るという、最上級生としての意地を見せつけた大会であった。しかし視点を変えるならば、元気あふれる下級生が登場しなかったことは、関西学生バドミントン界にとって、将来に不安の残る結果となった。

◇男子ダブルス

▼準々決勝

上田 西川（近大）	2	15—8 15—4	0	金子 山田（京産大）
諸多 小山（同大）	2	15—11 18—16	0	岡田 山本（大経大）
西堀 吉兼（近大）	2	15—1 15—3	0	上田 山崎（大経大）
中村 藤堂（京産大）	2	17—14 15—7	0	福富 山村（神大）

▼準決勝

上田 西川	2	15—7 15—6	0	諸多 小山
西堀 吉兼	2	15—10 15—7	0	中村 藤堂

▼決勝

西堀 吉兼	2	15—10 14—17 15—8	1	上田 西川

▼三位決定戦

中村 藤堂	2	15—3 15—12	0	諸多 小山

シングルスに比べて、波乱なく上位シードが順当に勝ち残った。中でも上田・西川、西堀・吉兼の近大の2組は、スピード、

レシーブ力は他の追随を許さないものがあり、楽に決勝進出を果たした。

近大同士の対戦となった決勝は、予想通り最初からスマッシュ、ドライブとスピーディーな試合展開となった。

終始リードを保った西堀・吉兼が第1ゲームを先取。第2ゲームに入っても第1ゲームの勢いで西堀・吉兼が常にリードの状態がつづいたが、上田・西川も上田が打ち、西川が止めるという本来の得意のパターンで追いあげ、セッティングの末第2ゲームを取り返した。

ファイナルゲームは、速いタッチで攻撃する西堀・吉兼のレシーブが冴え、上田・西川を圧倒した形で初の栄冠に輝いた。

◇女子シングルス

▼準々決勝

河村（四条畷） 2 — 0 福岡（武庫川）
（11—0, 11—4）

吉竹（甲南大） 2 — 1 網家（武庫川）
（7—11, 11—0, 11—7）

平（四条畷） 2 — 0 山中（大体大）
（11—5, 11—0）

阿部（天理） 2 — 0 井口（武庫川）
（11—3, 11—0）

▼準決勝

河村 2 — 0 吉竹
（11—1, 11—2）

平 2 — 0 阿部
（11—2, 11—7）

▼決勝

河村 2 — 0 平
（11—9, 11—4）

▼三位決定戦

阿部 2 — 1 吉竹
（8—11, 12—11, 12—10）

男子とは対照的に、ベスト8を、3年生、2年生の若手が占めるという喜ばしい結果となった。しかし四条畷の選手と他の大学の選手との差は、埋め難いものがあったようだ。

女子も男子に負けず劣らずの好試合が多く展開されたが、その中のいくつかを拾ってみると、新人ながら臆せず、積極的に河村に戦いを挑んだ新谷（竜谷大1年）。ライバル同士の戦いとなった網家対吉竹。両者共に来年が楽しみな阿部対石田（四条畷1年）。

ベスト4の中でも河村、平両者の実力は圧倒的に抜きんでており、向うところ敵なしで決勝へと駒を進めた。

お互いに手の内を十分に知り尽くしている同士のため、淡々とした調子でゲームは進んだ。ただ平にとって悔まれるのは、終始リードしながら第1ゲームを取ることができなかったことだろう。

第2ゲームに入ると、シングルスにおいては〝一日の長〟がある河村が、確実なレシーブと速い配球で平をおさえ、2年連続2回目の栄冠に輝いた。

◇女子ダブルス

▼準々決勝

河村 / 平 2 — 0 竹田(麻) / 竹田(里)（キケン）
（四条畷） （仏大）

山中 / 森 2 — 0 福岡 / 寺田
（大体大） （武庫川）
（15—7, 15—12）

網家 / 井口 2 — 0 亀井 / 大下
（武庫川） （大体大）
（15—3, 15—4）

合川 / 石田 2 — 1 阿部 / 吉川
（四条畷） （天理）
（15—11, 15—8, 11—15）

▼準々決勝

河村 / 平 2 — 0 山中 / 森
（15—3, 15—3）

合川 / 石田 2 — 0 網家 / 井口
（15—11, 15—7）

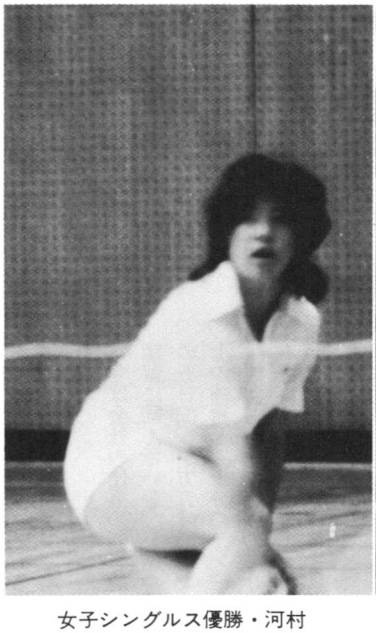
▼決勝

河村 / 平 2 — 0 合川 / 石田
（15—5, 15—6）

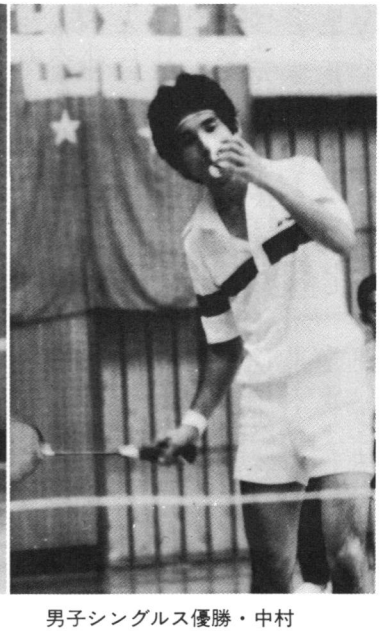
戦前の予想通り、波乱なくベスト8が出揃った。それぞれ個性豊かなダブルスが残り、興味が持たれたが、合川・石田対阿部・吉川が激戦になったほかは、パワーとスピードを誇る河村・平、山中・森、網家・井口が比較的楽にベスト4進出を決めた。

しかしここでも、四条畷の2つのダブルスは群を抜いており、決勝は同士打ちとなった。河村・平はサーブ、レシーブ、アタックと合川・石川をまったく寄せつけず、貫録勝ちといったところ。合川・石田は、まとめてポイントを与えてしまう精神的弱さを暴露したものの、一年生ながら準優勝は立派と言えるだろう。

（関西学連記）



女子シングルス優勝・河村



男子シングルス優勝・中村

WORLDWIDE TOPICS

海外トピックス
友枝康子

カナダでのコーチ体験記

ポール・ウェトナール

一九七六年七月三日、カナダ・バドミントン協会のナショナル・コーチとなった。二年間という約束での仕事だったが、私としては、カナダを国際クラスに引き上げるには少なくとも三年から七年かかると思っていた。

主な仕事はナショナル・チームのコーチとトレーニング、そして、時間があれば、選手やコーチの相談にのることだった。

最初の三か月はオタワで、大学やナショナル・トレーニング・センターで教え、熱心な若者たちとの生活を楽しんだ。私の任期の終る頃に、この中から少なくとも五人のナショナル・チームのメンバーが生まれたのは嬉しいことだった。

九月からはトロントを中心にナショナル・チームのコーチや夏のジュニア・キャンプと国内を回り歩いた。

シェイク・ダウニーと一緒に仕事をした経験を生かして、基本的なゲーム計画を作り、ナショナル・チーム全員に徹底させ、トーナメントごとに、その進展状態をチェックした。

一九七七年には、政府の補助金などによって、協会は自分たちのホールを持つことができることになった。そしてこの頃には、ナショナル・チームは、A、B、Cにランクづけされた登録選手となった。

学業、仕事の都合、その他の理由で脱落する選手がいて、顔ぶれに変更があった。

ケベック、オンタリオ、アルバータ、ブリティッシュ・コロンビアの四州は、バドミントンが盛んで、私設のクラブが優秀なプレーヤーの輩出に指導的役割を果たしている。

コーチ陣の組織もしっかりしている。パンアメリカ諸国への援助、カナダ・コーチ協会主催のセミナーや連邦レベルの指導も行われる。レベル1からレベル4まで、コーチに格付があり、コーチング・マニュアル三冊も作成されている。

今後必要なのは、国際チームを指導する経験豊かなコーチ陣だが、この組織から考えて、それも間近に叶えられるはずだ。

一九七八年十二月に帰国、この経験を生かす機会のあることを望むとともに、カナダでめぐりあった多くの友人たちの今後を期待している。

（バドミントン・一九七九年六月号）

日本から来た優雅なシャトラー

湯木博恵にインタビュー

ぴかぴかのコート上の小柄な選手を熱心に追う子供たちの一団。彼女よりもずっと背の高い子もいる。ボールペンや鉛筆を手にサインをもらおうと待っている。

湯木博恵、全英選手権シングルスで四回優勝。コート上で日本選手の見せる悪びれない態度で、英語のインタビューに応じた。言葉がうまく出て来ない時、彼女は、ゲイシャの国で育ったスポーツ・レディらしく、優雅にそれを認める。

湯木嬢は、背丈の不足を冷静な、計算されつくした正確さで十分に埋め合わせ、しかも、試合にはその勝気さがみなぎっている。日本の彼女の家族では、誰もバドミントンをやっていない。二人の兄弟は野球に夢中だった。彼女がプレーを始めたのは十二歳の時だった。すばらしくコントロールのきいたドロップ・ショット、力強いバックハンドと、正確な飛球距離は、ダンス、ランニング、水泳などと共に、体育大学在学中に培われたものだ。

今は会社の仕事の間を縫って練習に励んでいる。一週のうちの五日間、夕方二時間のコート上の練習と二十分のランニング。

彼女とはおなじみのギリアン・ギルクスやリーン・コーペンと同様、男子プレーヤーを相手に腕を磨いている。

三十歳になった彼女は、今、ピークに達したのだろうか？空中に富士山を描いた彼女は、笑いながら、その五合目を指した。しかし、上り坂なのか下り坂なのだろうか？

彼女が、その後追いつ追われつのライバルとなる高木紀子（現中山夫人）を破って全英選手権で優勝してから十年になる。一九七〇年にはアキレス腱のケガ

で中途帰国したが、翌年には高木嬢と組んでギルクスとジュディ・ハッシュマンを相手にダブルスに挑戦した。今はシングルスだけに専念している。「両方はとても大変だわ」と言っている。

東京では、土曜には母校でバドミントンを教えている。ウェンブレーに出場しなくなったら、教師になりたいそうだ。「もし結婚していたら、バドミントンはやっていられなかったでしょうね」。しかし、いずれ身を固めて日本の優雅な主婦になりたいと語っていた。

聞き手＝ピーター・ジェサップ

（バドミントン　七月号）

IBF年次総会から

オープン化へGO!!

第41回IBF年次総会は、トマス杯決勝の行われているジャカルタで開かれた。

イギリス提案のルール2bの修止案の可決、一協会一票のソ連案否決の後、台湾の追放という政治的問題は白熱した議論の後、撤回された。

昼食の後、テレビのカメラに囲まれて、代表たちは半時間ほど映画スター並みの気分を味わった。

イギリス提案のルール14dサービスについての改正案が可決された後、大した討議のないままに議題は可決あるいは撤回されて、いよいよオープン・バドミントンの承認に移った。

クレイグ・リーディは理事会を代表して、規則の成文化を待ってオープン化を認めるという昨年の決定に触れ、認定プレーヤーの定義とその地位の意味を中心に、作業グループの作成した規則案を紹介した。

特に異論を述べる者もなく、二十五分後に54対0で可決された。

この後、IBF及びWBF加入国のプレーヤーが一九七九年―八〇年のシーズン中に試合をすることについて動議が出されたが、簡単な討議の後撤回された。

議長の要請で報道関係者が退場した後、二日前のバンドンにおけるWBF代表との非公式な会合について議長から報告があった。意見の折り合いがつけられるかどうかは明らかではないが、双方とも話し合いを続けたい意向ではあるので、今後理事会の判断により接触を続けることに決定した。

総会を通して、第一に、スポーツに入りこむ政治の影響がますます大きくなっていること、第二に、インドネシアでのバドミントンの人気と、「ミスター・バドミントン」ハーバート・シェーラに対する人々の敬愛の念が並々ならぬものだということが印象的だった。

グレアム・アックスフォード

（バドミントン　七月号）

★特派員について

特派員の募集を行ないましたところ多くの方々からハガキをいただきました。どのような形でご協力をお願いするか、9月中旬あたりから順次ご連絡いたしますので、よろしくお願いいたします。

当面は地方大会、交流会などの活動と、クラブ紹介が中心になりますので、スナップなども可能でしたら撮っておいていただきたいと思います。

日本バドミントン協会出版局編集部

来たれ!! バドミントン キャンプ

バドミントン・キャンプ

主催	ラケットショップ元町
協賛	YONEX, 河崎ラケット, サンバタ
参加費	￥23,000
場所	群馬県吾妻郡嬬恋村大字千俣611 ヤマタ・ホステル TEL 02799－6－0101
宿舎	同上
期日	S54年10月5日(金) 6日(土) 7日(日)
集合・場所	S54年10月4日 PM9:30集合 出発PM10:00 横浜駅西口天理ビル前
コーチ	相沢マチ子(河崎ラケット専属)プロ
交通機関	バス（勤労者観光センター）
募集人員	50名（18歳以上）
申込締切日	S54年9月20日(ただし定員になり次第締切らせていただきます。)
申込方法	申込用紙に必要事項を記入し、参加費にそえて直接持参または、現金書留で受け付けます。申込金￥10,000残金は9月30日まで、取消の場合申込金は返却しません。
その他	全員の方に、旅行傷害保険（スポーツ傷害保険含む）に入っていただきます。(保険料は参加費に含まれています。)

お申込み・お問い合わせは

● ラケットショップ元町

横浜店 〒231 横浜市中区元町5－203 元町スカイビル5F TEL 045－651－2020・662－9857

渋谷店 〒150 東京都渋谷区渋谷1－25－6 TEL 03－400－7390

池袋店 〒171 東京都豊島区西池袋1－19－6 TEL 03－988－0215

ラケットショップ元町

バドミントン物語

そのルーツをさぐる

バドミントン競技の起源については、各種の説があり、はっきりしませんが、今年の6月にニュージーランドのオークランドで開かれた「ヨネックス＝パシフィック国際大会」のプログラムに〝バドミントン物語〟と題して面白い記事が掲載されています。友枝康子さんに訳していただきましたので、ここにご紹介いたします。

◇　◇　◇

バドミントンに似たゲームの始まりは、バトルドアとシャトルコックで、その起源は十六世紀までさかのぼり、当時の絵画にも残っている。二人以上のプレーヤーが、素朴なラケットの一種のバトルドアでシャトルを打ち合う。その特徴はラリーを長く続けてシャトルコックをできるだけ長く宙に遊ばせることで、一方バドミントンは、相手が打ち返せないようにシャトルを床に叩きつけることはご承知のとおり。

よく知られているように「バドミントン」の名は、グロスターシャーのビューフォート公の別邸バドミントン荘に由来する。今は国際的な競馬の開催地で有名だが、前世紀の半ばから終りにかけては、週末のパーティでも知られていた。客は、乗馬、テニス、クリケット、カード、チェスなどの戸外や室内の娯楽に興じたものだった。

ある雨の週末、外にも出られず、室内の遊びにもあきた頃、ある天才が一人、シャンパンをたっぷりときこし召した後で、食事に出されたガチョウの羽根をシャンパンのコルクに突き刺すことを思いついた。そして、客たちを広い部屋に連れて行って、部屋の真中を仕切っていたアコーディオン式ドアをたたみこんだ。そこにロープを張ると、客を二組に分けてテニスのラケットを持たせると、先刻の変ったコルクと羽根の組み合わせたものをお互いに打合いをさせた。これが今日のバドミントンの始まりである。

始めのうちはシングルスはなくて、二人以上のチームがネットの両サイドにいたこともこれでうなずける。最初の全英選手権（一八九九）は、ダブルスが三試合だけで、男子、女子ともにシングルスが加えられたのは翌年のことだった。

週末のパーティ起源説を裏づけるもう一つの証拠は、このゲームが定着して、国際試合も行われるようになった一九〇四年まで、コートはネットの所でベースラインより狭くなって、砂時計の形をしていたことである。これはアコーディオン式ドアが壁きわにたたみ込まれても、なおフィールドに突き出していたことから来ている。

この歴史的な週末に、シャンパンのコルクと羽根のシャトルを考えた人物はジョン・ロレイン・ボールドウインだという説がある。有名なプレーボーイでスポーツマン、当時ビューフォート公の親友だという。

この後、バドミントンは、その週末客の一人の駐在士官によってインドに伝えられた。インドでプーナと呼ばれたこのゲームは、規則も作られて、数年後イギリスに再輸入され、流行するようになった。一八八〇年代末には、イギリス全土に広まっていたが、規則やコートのサイズは土地によって違っていた。

一八九三年にはバドミントンの規則が整って、バドミントン協会（現在のＢＡＥ）が設立され、引きつづき、アイルランド、スコットランドにも連盟が出来た。

バドミントンが国際的なスポーツとなるのに大きな力のあったのは、ジョージ・トマス卿である。プレーヤーとして数々の記録を残したトマス卿は、九ヵ国を会員とするＩＢＦの創立に貢献し、彼の寄贈したトマス杯は、最高の名誉として、男子チームの争奪戦が激しく行われている。

ＩＢＦがまだ揺籃期にある一九三七年、この競技に深い影響を与えることになるもう一人の人物が事務局長になった。ハーバート・シェーラだった。バドミントンをこよなく愛した彼は、この競技の発展のために世界中を回った。その経験と知識を惜しんだＩＢＦは、退任後彼のために名誉副会長の椅子を作った。

第二次世界大戦後、これまでのヨーロッパ勢にマラヤを皮切りに「アジア攻勢」がかけられた。全英チャンピオンにもアジア人の名前が次第に見られるようになり、一九六〇年代に入ると、女子の方にも、湯木、高木、ミナルニなどが現われてきた。またヨーロッパの中でも、イギリス勢のほかに、デンマークも、コプス、コペロ、アーン夫人などを輩出するようになった。

プレーヤーたちは国際試合に飛び回るようになり、画期的な出来事が引き続いて起こった。とりわけ意義深いのは、オープン・バドミントンの到来と、それによる今後の一層の発展である。

一世紀ほど前のバドミントン荘のあの週末、ビクトリア朝時代の紳士淑女がシャンパンのコルクとがチョウの羽で興したことを思うと、遙けくも来つるものかなと感慨にたえない！

30回目を迎えた
五大都市体育大会



ママさん選手もシャトルを追って親睦深める

五大都市体育大会は、戦後の混乱期の昭和25年に神戸市で開催されました。都市形態を同じくする神戸・大阪・京都・名古屋・横浜の五大都市が、スポーツを通じてお互いの親睦を深め、市民の健康づくりをめざして、すでに30回大会を迎えたわけです。

バドミントン競技は、昭和33年の第9回大会（京都市）から開催されるようになりました。

今年は大阪厚生年金会館大ホールにおいて、秩父宮妃殿下をお迎えして、7月13日に総合開会式が行われ、翌日から大阪市内で17種目の競技が盛大に開催されました。

バドミントンは東淀川体育館を会場に各コートで熱戦がくり広げられました。

試合形式は3複2単の団体対抗リーグ戦で、今年から新しい試みとして、男子40歳ダブルス、女子30歳ダブルスがとり入れられました。

とくに女子は家庭婦人の選手が、力いっぱいプレーをしていたのが印象的でした。

成績のほうは、男女とも横浜市が圧倒的に強く、それぞれ4戦全勝で、男子は2連勝、女子は5連勝を飾りました。


横浜のママさん・高橋弘子選手

最終日には、細郷横浜市長も会場に姿をみせ、市民の活躍に目を細めていました。

また、大会2日目の夜には、宿舎において、神戸・京都・名古屋・横浜の選手相互による親睦会が開かれ、各都市から芸達者の選手が登場し、夜のふけるのも忘れて、拍手かっさいを送っていました。

来年は、横浜市で開催されることになっています。



男女優勝の横浜チーム

5分間インターバルをめぐって

規則どおりならば、チュンチュン・ワジュディは失格だったが……

本誌5月号でも既報のとおり、全英選手権男子ダブルス準決勝飯野・土田組対チュンチュン・ワジュディ組の一戦で、インドネシアペアはファイナルゲーム前の5分間のインターバルを守らなかったということで失格を宣告された。この宣告は主審によって宣せられたものであるが、オナリー・レフェリーのハーバート・シェーラ氏は、この判定をくつがえし、主審を交代させてゲームを続行させたのである。

日本では、この5分間インターバルは、それほど厳密に守られているわけではなく、コートに入らなければ呼びにいったり、多少待つというのが通例である。

しかし、ルールを守るということには厳格なイギリスのこと、この判定をめぐって激しい論争が闘わされている。

★いっそのこと、5分間ルールをなくしたら

〝バドミントン〟論説★

そこで、そのうちのいくつかをご紹介しよう。まず最初が機関誌「バドミントン」の論説、つづいて読者からの投稿、そしてしめくくりは、失格を宣告した当の主審の発言である（訳＝友枝康子）。

2秒間ルールを守らぬのはバカだけだと言うのが、高速で車を走らせる時の鉄則である。バドミントンで5分間のインターバルを守らないのも同様の愚行だ。命にかかわることはないものの、のどから手が出るほどに欲しいチャンピオンのタイトルを逃がしてしまうかも知れないのである。

よく知っているはずの国際的プレーヤーたちが、これで二度このルールを破っている。一九七八年のヨーロッパ選手権でのスウェーデンのカールソン・プレストン組、それから最近の全英選手権でのインドネシアのチュンチュン・ワジュディ組である。男子ダブルス準決勝で日本の飯野・土田組との対戦の時、インドネシア組は会場の離れた所にある更衣室にこのインターバルの間に出かけた。二人が戻ったちょうどその時、主審のアラン・ジョーンズが二人の失格を宣告していた。

インドネシア組の抗議がしりぞけられると、レフェリーのシェーラ氏がコートに出て、選手たちを呼び戻し、マイケル・ギルクス審判に続行の合図をした。

審判の判定がくつがえされる場合、どこかが間違っている？誰がいけないのか？　プレーヤーか、審判か、レフェリーか、それとも規則そのものか？

プレーヤーは規則を知っている。ウェンブレーの更衣室が中央のコートから遠いことが言い訳になるだろうか？　たいていのプレーヤーはタオルで汗を拭い、トラックスーツでコート近くに控えている。緊張し切っているプレーヤーには時間を気にかける余裕はないとなれば、コーチとかチーム・マネジャーの役目のはずだ。

審判はどうだろうか？　規定21項に従って、1秒でも遅れれば規定どおりに失格を宣告しなければならない。

常識からすれば、「2、3秒がどうだっていうんだ？」ということになる。しかし、審判の仕事は、ほんの一瞬、一筋の毛ほどの差もゆるがせにはできない。一度規則を曲げると、もう公平な審判者ではなくなる。

レフェリーはどうか？　シェーラ氏のとった素早い行動が観衆を喜ばせたことはたしかだった。また、疑問も湧いた。何を根拠に判定をくつがえしたのか？　ジョーンズ氏が正確なインターバルを測れるものを持っていないと思ったのか？　選手たちが会場に入って来た時、時間切れの警告を聞きとれるようにすべきだったと思ったのか？

シェーラ氏は熱心な観衆の気持に従ったのか？　一九六七年に熱狂するインドネシアの観衆の怒りの前で、トマス杯の試合放棄を裁定した同じ人物が、穏やかなイギリスの観衆に屈するわけがない。

インドネシアの役員を怒らせて、有力なIBFのメンバーであるインドネシアをWBFに追いやることを恐れたのか？　しかし、老練な外交的手腕を持つシェーラ氏が、インドネシアの誠実さに疑念を持ったり、報復手段に屈するような誤りを犯すはずはない。

それでは、なぜか？　緊迫した、すばらしい第3セットを八千人のファンが見逃してはならないし、また、スポーツマンである日本のペアにとっても、形だけの勝利は気に入らないだろう？　一言で言えば、これがバ

ドミントンにとって最良の方法だと思ったのか？

正式に何の表明もされないはずであり、読者のよきご判断にお任せしたい。ともかく、このような事態が二度と起らぬように手を打たなければならない。

規定改正のためには？

(1)プレーヤーがコートを離れる時には、役員が付き添うとかはっきりとした警告を受ける？

(2)コート・サイドを離れることを禁止する？

(3)表現を約5分に変える？　しかし、ここで気の毒な審判の判断はどうなるだろう。「5分と20秒……それとも30秒……、40秒……？」

暑い国での試合、ことに気候に慣れない外国選手の場合には、3セットのゲームは疲労は激しい。また観衆のためにも、インターバルは飲物を買い手足を伸ばす時間として欲しい。しかし、別のコートでプレー中の選手やその観客にとっては騒々しく感じられることだろう。

選手にとって、休みをとれるという一方、リズムを失い、神経をいらだたせることにもなるし、第2セットの勝者、敗者の立場によっても、インターバルの影響は違ってくる。

気候上の条件で必要となる場合以外は、この規定は廃止した方がいい。そうすれば、こういう不幸な事件は起らないし、バドミントンは、以前のように、流れの早い、休みなしの見ものに戻るだろう。

（バドミントン　五月号）

★もっと現実的な対処を

読者の投書から★

幸いにも全英選手権の準決勝を楽しむことができましたが、残念な点が一つ、第2セットと第3セットの5分間の休みのことです。

このルールがどのようにしてなぜ出来たのかはわかりません。ウェンブレーの観衆の不満に応えて、レフェリーは判定をくつがえしました。この結果、わかったことの一つは、イングランド・バドミントン協会には規則の適用を知らない審判が一人はいるということと、第2セットまで楽しかったこのゲームが、いささかつまらないものになったことです。

現状では体調が絶対的なものではなくなっている――2セットもちこたえれば、5分間回復の時間があります。スロー・スターターには結局不利になります。

このルールによって、ベストプレーヤーがベストになることを邪魔してはいないでしょうか？　（I・G・コレット）

失格のジレンマ

この場合、規定22dに照らして、審判は当然の処置をしました。

では、なぜレフェリーは正しい審判の判定をくつがえしたのでしょうか？　どのような状況の時にレフェリーが審判の判定をくつがえすことができるのか、IBFによる決定を早急に行なう必要があります。

ただ、審判の決定は正しかったとしても、いわゆる常識的配慮によって問題を防ぐことはできなかったでしょうか？　4分間経過の警告は行なったそうですが、インドネシア選手はいなかったのですから、レフェリーにその事を伝えれば、彼らを連れ戻せたはずです。それに失格を宣告した時には選手たちは姿を現わして2番コート近くに来ていたのです。この規定14dの厳しい適用は、警告が確かに届いていて、それでもプレーをしようとしない時に限られるべきでしょう。

この事件の教訓は数多くありますが、今後同じことがないように、5分間インターバルの規則を明確にしなければなりません。

審判の時計だけに頼らずに正式の計時を行なうこと、プレーヤーとのコミュニケーションをもっと確実にすることなども考慮しなければいけないでしょう。

（F・E・ヒンチクリフ）

（バドミントン　五月号）

★これが事実だ

当の主審は語る★

五月号の「5分間ルール違反」を読み、事実関係について、二、三つけ加えたいと思います。インドネシア選手の失格の経緯は次のとおりです。

(1)4分経過したので警告を出した。

(2)日本選手はすっかり着かえて戻った。

(3)チュンチュンとワジュディの名を呼びコートに戻るように伝えた。

(4)審判はレフェリーの許にサービス・ジャッジを送って、現状の判断を求めた。

(5)レフェリーは会場にアナウンスしてインドネシア選手の名前を呼んだ。

(6)5分経過して、「ファイナル・セット、ラブ・オール、プレー」のコール。

(7)インドネシア選手失格、日本選手の勝利が宣告された。

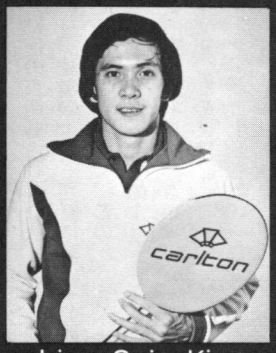
(8)インドネシア選手の所に歩み寄り、理由を説明した。抗議はなかった。

(9)サービス・ジャッジと共にコートを引きあげた。

日本選手が、最初のアナウンスのすぐ後で戻ってきたのは、このアナウンスを聞いたからだと思いました。インドネシア選手の確認のために二度目のアナウンスをしたのです。

（アラン・ジョーンズ審判）

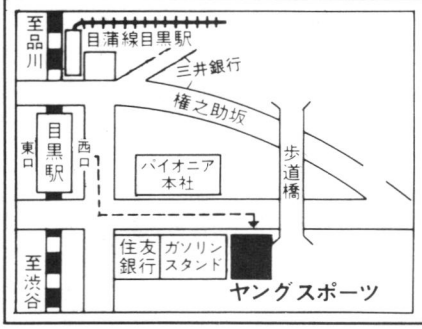
（バドミントン七月号）



Liem Swie King
1978年度全英選手権
男子シングル優勝

大量入荷!!

'79バドミントンラケットは カールトンだ!!



ヤングスポーツ

〒153 東京都目黒区目黒1-3-16 目黒駅西口1分 ☎491-7822

分析シリーズ

バドミントンの時間分析

ワールドカップ'79女子ダブルス決勝

——その3

日本体育大学監督　関根義雄
国分寺市バドミントン協会　平川卓弘

はじめに

7月号まではサービスおよびフィニッシュに関する分析を通して、このときに起ったことをいろいろな側面から調べてきました。

そこで今回はいよいよラリーの最中に各選手がどんな技術を駆使して戦っていたかを明らかにしてゆきます。

分析が進んでゆくと選手によって戦法に著しい差があることがわかります。また、この試合に臨んだときのコンディションなどがよくわかります。

ショートサービスのリターン

ダブルスゲームにおけるショートサービスのリターンは最も大切な技術です。

表—1はショートサービスのリターンを分類したものです。全選手のリターンショットの合計は65本です。この中でプッシュとヘアピンが最も多く、それぞれ26本と27本で合わせて53本は全リターンの82%に当ります。

表—2は表—1の中から選手ごとに最も多いリターンから三番目までを多い順に並べ変えて見やすいようにしたものです。表—2に示す通り、一番目と二番目で比較すると四人の選手がちょうど二組に分類できます。

プッシュが一番でヘアピンが二番の選手は植野とイメルダです。他の二選手はこの逆です。興味あるのは各選手の三番目の技です。ここで各選手の特色がよく出てきます。一番目にプッシュで攻めている選手は三番目でも攻めています。植野選手はサイドラインへプッシュ気味のハーフショットで、イメルダ選手はストップでネット際に攻めています。他方、逃げているのが米倉、ベラワティ選手です。ともにアンダークリヤーでバックラインへ逃げています。

(注)ショートサービスに対するヘアピンショットとプッシュの区別は、シャトルをアンダーハンドで下から上に向けてネットショットするのをヘアピンショットとし、プッシュのフォームでオーバーヘッドのままの構えでネットショットする技術をストップと定義して分類した。

プッシュのリターン

選手の特色はプッシュに対するリターンのように速い打球の処理方法について調べてみるとよくわかります。表—3にこれを示します。

ネットを積極的に利用して返球に変化をつけ技術力で対抗するタイプの選手は植野、イメルダの両選手です。この二人のプレーヤーは相手の攻撃に対して常に何らかの手段によって攻め返しています。この二人に比べるとベラワティ選手はただ単にパワーでクリヤーとして遠くへ弾き返しているだけです。ベラワティはネットから逃げています。これは後に示すヘアピンショットの処理にも現われています。

プッシュの動きの速さを比較すると

図—1はサーバーがショートサービスを打ってからレシーバーがプッシュするまでの時間値を示したものです。図—1の右側に示すとおり各選手のプッシュの平均値は0・67～0・74秒だったことがわかります。

表－1　ショートサービスのリターン（本）

	日本		インドネシヤ		合計
	米倉	植野	ベラワテ	イメルダ	
プッシュ	3	7	6	10	26
ヘアピン	7	2	12	6	27
ストップ	0	0	1	4	5
アンダークリヤー	1	0	3	1	5
ハーフショット	0	2	0	0	2
合計	11	11	22	21	65

表－2　ショートサービスのリターン（上位3種）

	NO－1	NO－2	NO－3
米倉よし子	ヘアピン	プッシュ	アンダークリヤー
植野恵美子	プッシュ	ヘアピン	ハーフショット
VERWATY WIHARJO	ヘアピン	プッシュ	アンダークリヤー
IMELDA WIGUNO	プッシュ	ヘアピン	ストップ

植野選手のプッシュは平均0・67秒で標準偏差0・05秒（ほとんどが0・62秒から0・72秒の間にある）と最も安定した動きをしています。

米倉選手は少し遅いようです。

ベラワティ選手は打点にムラがあるようです。イメルダ選手も動きにリズムがあるのか安定しています。

米倉選手の遅いのは何が原因しているのか調べるために右足のヒザの動き（図－2）を調べてみました。どの選手も動き始める前にヒザの沈み込みがあった後に動作が開始するので、この時の右ヒザの動きの時間値を比較してみました。図－1の左側に測定値を示します。米倉選手の動きは他の選手にくらべてやや遅いようですが、はっきりしたものとしては出てきませんでした。しかし、図からわかることは四選手ともサービスがなされてから、およそ¼秒ほどでプッシュするための動作が開始されていることがわかります。

参考のために、私達が観測した最も速い動きをした選手は日本の男子選手で飯野佳孝選手です。彼はヒザの沈み込み開始が0・14秒、プッシュするまでの時間値は0・49秒でした（いずれも平均値）。

プッシュのフットワークを調べると

ショートサービスをプッシュするとき選手はネットに向ってダッシュします。このときの動作の速さと足の動きの関係を調べてみました（図－1）。

一般にショートサービスに対する構えは図－2に示すとおり右利きのプレーヤーは左足を斜め前に、右足を後に引いて構えます。プッシュするときは、この姿勢から動作開始直前に一瞬沈み込み、その直後に右足で床を蹴ってネットに向ってダッシュします。この動きを四人の選手について比較してみると、ベラワティ選手だけが違っていました。彼女はまず前に出ている左足を浮かして少し前にずらします。それから右足で床を蹴って出ます。

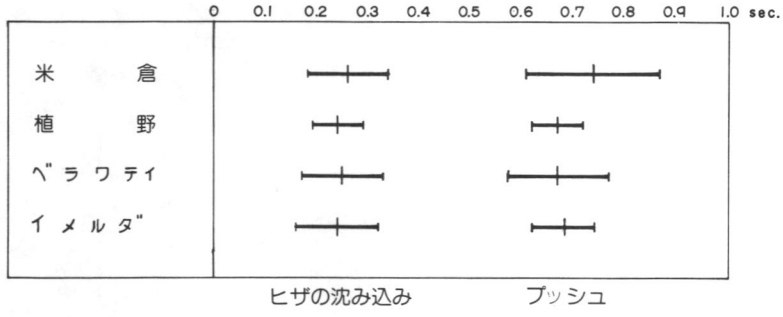
ベラワティ選手のレシーブにヘアピン、アンダークリヤーが多い（表－1）のはこのためなのでしょうか。しかし、プッシュする時の動作の速さ（図－1）は遅くありません。

この足の動きは彼女の背が高いためなのか、それとも別の理由なのかについて、この動作分析の結果だけではわかりません。しかし、この出足の遅れがその後の方法に大きく影響

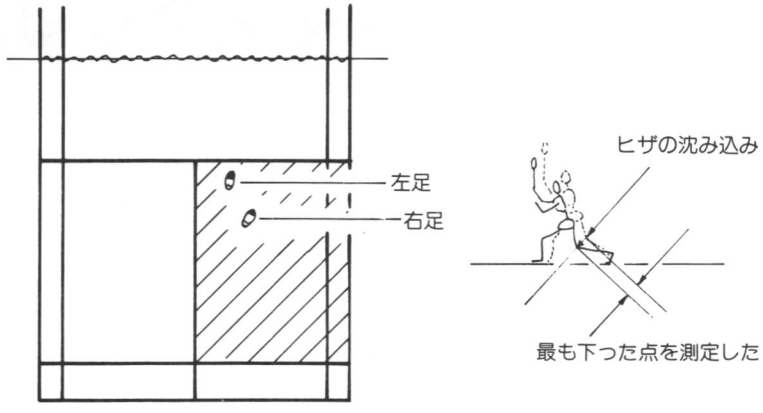
表－3　プッシュのリターン（本）

	日本		インドネシヤ		合計
	米倉	植野	ベラワテ	イメルダ	
ドライブ	2	3	4	3	12
ドリブンクリヤー	1	1	4	2	8
クリヤー	1	1	2	1	5
プッシュ	1	2	0	2	5
ストップ	1	2	0	1	4
ハーフショット	0	1	0	2	3
アンダーカット	0	2	0	0	2
合計	6	12	10	11	39

図－1　ショートサービスをプッシュするときの時間値(秒)



図－2　ショートサービスに対する構えとヒザの沈み込み



表－4　ヘアピンのリターン(本)

	日本		インドネシヤ		合計
	米倉	植野	ベラワテ	イメルダ	
アンダークリヤー	3	4	4	2	13
ヘアピン	4	1	2	3	10
プッシュ	3	2	1	3	9
ハーフショット	1	6	0	1	8
ドリブンクリヤー	2	4	1	0	7
クロスネット	3	1	0	2	6
合計	16	18	8	11	53

ヘアピンのリターン

ヘアピンに対するリターンを表－4に示します。表から判断すると米倉選手は自分のヘアピンショットに自信を持っているようです。相手からのヘアピンに対してヘアピン、またはクロスネットで対応し、浮いたらプッシュしているということは容易に推測できます。

イメルダ選手も積極的です。米倉選手と同じようにヘアピンに対してヘアピンやクロスネットで対戦し、チャンスがあればプッシュで攻めています。

植野選手はネットからシャトルを遠ざけて攻めるなどしてヘアピンショットを武器にゲームを進めていたようです。そして不可能ならアンダークリヤーで逃げています。

植野選手はネットからシャトルを遠ざけています。彼女はハーフショットで左右に散らすかアンダークリヤーで後へ逃げています。

ベラワティ選手はまずアンダークリヤーで逃げています。ヘアピンで応戦することもありますが彼女の場合相手の選手から再びヘアピンで仕掛けられるとアンダークリヤーで逃げてしまいます。この点が米倉選手と大きく異なっています。

TOKYO LETTER

by Miwako Wakazono & Carolyn Matsuura

The month of August marks the middle of summer in Japan.

People take off from work for a week or two and students are on vacation for one or two months.

People enjoy their vacations in many different ways, but sports activities are undoubtedly the most popular with everyone.

At this time of the year, the high school baseball tournament keeps half of the nation glued to their television sets.

After a series of preliminary games in all the prefectures of Japan, the winning teams representing each prefecture gather at the Koshien Stadium in Hyogo Prefecture and compete for the championship of the tournament.

To high school baseball players all over the nation, playing at the Koshien Stadium is the greatest honor that they can have.

The Japanese are great baseball fans by nature, but high school baseball is by far the most popular of all. This tremendous popularity may be due to the way these student players throw themselves into the game, purely and simply, with no thought of personal loss or gain. Even as I am writing this now, people all over are congregated around their television sets, refusing to budge an inch.

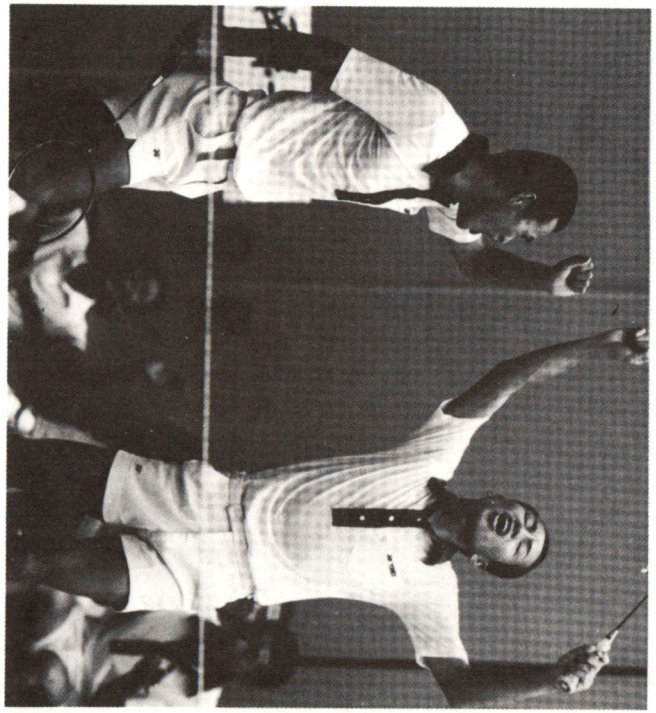
However, badminton must be given all the credit it deserves, too. August is the month of tournaments in the badminton world.

The most representative ones are the Inter-High School Tournament, the Educational Personnel Tournament in which teachers have a chance to display their skills, the Junior High School Students' Tournament, and the Working People's Tournament. We of the editorial staff traveled all over Japan, from east to west and north to south, trying to cover all the tournaments.

This being the busiest time of the year, it was, for us, anything and everything but summer vacation. It is always such a pleasure, however, to meet so many players and to watch good matches first-hand.

As always, the tournaments this year again produced many champions and left us with many fond memories.

For the players as well as for us, the month of August was indeed a very significant one.



昭和５４年度日本バドミントン協会検定審査用具（追加）

日本バドミントン協会
用具委員会（単位 円）

銘柄名		価格	登録番号	会社名	品番	銘柄名	価格	会社名
検定合格						**審査合格**		
ポストの部						ウエアーの部		
BP-10	差込式	16,000	7802	㈱イノコアサヒヤ	21-107	ベスト	5,000	河崎ラケット工業㈱
BP-12	床止式	26,500	〃	〃	21-115	ワンピース	9,000	〃
G-52	差込式	18,000	7803	合名会社上坂鉄工所	21-116	〃	9,000	〃
G-52A	床止式	50,000	〃	〃	21-118	〃	8,500	〃
G-52B	重錘式	120,000	〃	〃	21-119	〃	8,500	〃
B-51A	差込式	18,000	7804	㈱小川長春館	KDD-112	〃	8,500	〃
B-51B	〃	18,000	〃	〃	〃 113	〃	8,000	〃
B-54AB1	床止式	26,000	〃	〃	〃 115	〃	7,500	〃
B-54AB2	〃	26,000	〃	〃	〃 116	〃	7,500	〃
M-1	差込式	18,000	7805	㈲小倉運動具製作所	KDJ 033	スコート	3,500	〃
BP-3	〃	15,000	7806	大久保体器㈱	〃 036	〃	3,200	〃
BP-4	床止式	25,000	〃	〃	934	ノースリーブ	3,800	ヨネックススポーツ㈱
KP-22	差込式	18,700	7807	㈱関西金属運動具製作所				
B-56	〃	18,000	7808	㈱栗林				
B-57	床止式	28,000	〃	〃		ラケットの部		
SR-57	差込式	15,000	7809	㈱三英商会	B-86F	エイトシックス	12,000	河崎ラケット工業㈱
SB-110	床止式	32,000	〃	〃	B8500	カーボネックス8	8,800	ヨネックススポーツ㈱
BP-10	差込式	16,200	7810	三和体育製販㈱				
DG-11	〃	19,000	7811	セノー㈱				
DG-21	床止式	29,000	〃	〃		フロアーコートの部		
B-57	差込式	15,000	7812	㈱都村製作所		スカイコート	480,000	長瀬ゴム
B-110	床止式	32,000	〃	〃				
CC-05	差込式	15,000	7813	東洋体器工業㈱				
529A	〃	14,500	7814	㈲中村体育器具工場				
454D	床止式	27,500	〃	〃				
79A	差込式	A11,000 B12,500	7815	㈱舟岡製作所				
B-58	〃	14,000	7816	㈱三橋体育				
B466	〃	16,000	7817	㈱藤栄				
92	〃	15,000	7818	後藤体器㈱				
91	床止式	22,000	〃	〃				

若さ爆発!!　秋のリーグ戦へ

このたび、恒例の昭和54年度関東大学秋季リーグ戦を、下記の要領で開催するはこびとなりました。

この大会は、関東学生バドミントン連盟に所属する160余校が、大学の名誉と栄光をかけて、激しい熱戦をくり広げるものです。個人戦とは、また違った学校対抗であるため、各校の熱気あふれる応援合戦も見ごたえあるものです。

とくに第1部、第2部の大学はいずれも学生界をリードするチームであり、各コートで火花を散らすプレーが展開されます。

ぜひ、ご来場のうえ、学生バドミントンを目の当りにごらんいただき、プレーヤーにご声援のほどお願いいたします。

記



▶**日程**＝9月29日(土)・板橋区立体育館
10月3日(水)・板橋区立体育館
5日(金)・大田区立体育館
6日(土)・大田区立体育館
13日(土)・板橋区立体育館

▶**交通**＝板橋区体育館（都営地下鉄線「志村坂上」下車徒歩5分・上ばきをご持参ください)、大田区体育館(京浜急行線「梅屋敷」下車徒歩5分、または国電「蒲田」下車徒歩15分・上ばきは不要です。

▶**入場料**＝全日とも無料です)

▶**競技時間**＝全日午前9時30分女子対抗戦から開始、終了は午後8時頃の予定。

▶**出場校**

男子1部＝法政大学、中央大学、早稲田大学、日本大学、日本体育大学、青山学院大学

女子1部＝日本体育大学、東京女子体育大学、日本女子体育大学、青山学院大学、大妻女子大学、慶応義塾大学

男子2部＝専修大学、関東学院大学、大東文化大学、慶応義塾大学、明治大学、明治学院大学

女子2部＝東京学芸大学、埼玉大学、早稲田大学、明治学院大学、昭和女子大学、専修大学

▶**主催**＝関東学生バドミントン連盟（☎ 03－469－7565）

▶**後援**＝東京新聞、東京中日スポーツ

編集室から

▼みなさん、夏休みはどのように過ごしましたか。海や山へ出かけ、真黒に日焼けされた方も沢山いることでしょう。編集部は、8月が1年のうちで最も忙がしい季節。インターハイ、教職員大会、中学生大会、社会人大会と、日本全国東へ西へ南へ北へと試合とともに歩きまわります。おかげで私たちも真黒。でもこれは〝土方焼け〟。

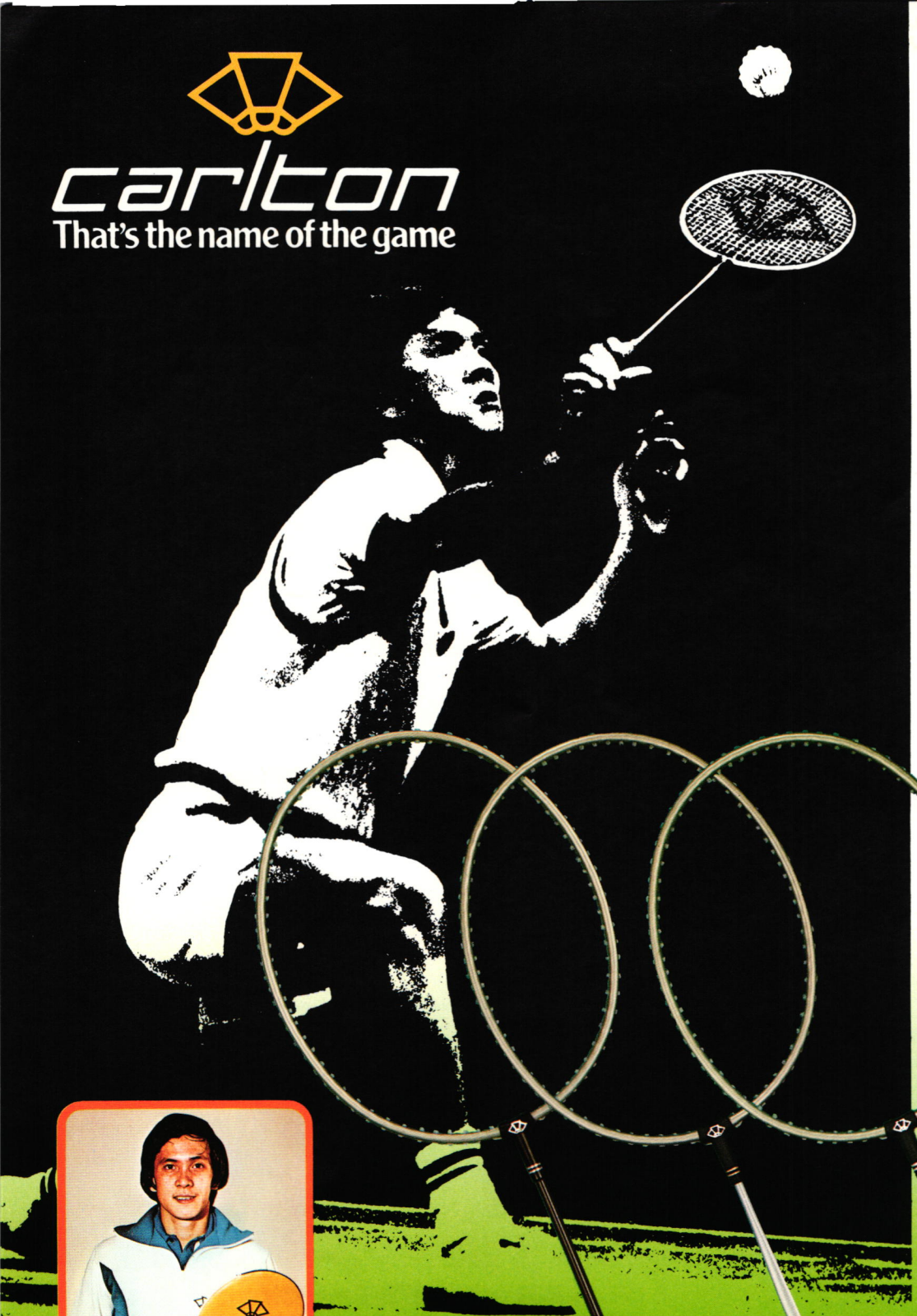
▼これからバドミントンを始めようという方。まだまだ上手になりたい方。今、スランプの方。そんな方々におすすめしたいのが〝スターティング・バドミントン〟編集部には毎日沢山の予約の葉書が届いています。まだという方は是非!!

▼バドミントンの試合にもいろいろな種類のものがありますが、学生のリーグ戦は、その試合内容はもちろん、各大学独特の応援合戦にも〝一見の価値〟あり。各大学とも、合宿を終え、そろそろコンディション調整の時期に入ったこととも思いますが、今季も精一杯の活躍を期待しています。

carlton
That's the name of the game

世界無敵のパートナー！

リム・スィー・キングとカールトン。



Liem Swie King（インドネシア）

男子シングル世界ランキング１位
'78全英選手権男子シングル優勝
'78アジア大会男子シングル優勝
'79ワールドカップ男子シングル優勝

carlton
3.7 S
¥9,500
（ヘッドカバー付）

carlton
3.7 X
¥8,500
（ヘッドカバー付）

carlton
3.7
¥8,000
（ヘッドカバー付）



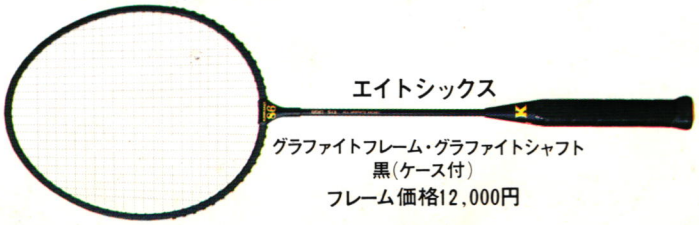
kawasaki
河崎ラケット工業株式会社



グラファイトシリーズ

世界初のオールグラファイトラケット

バドミントンラケットも確実に進化しました。



エイトシックス

グラファイトフレーム・グラファイトシャフト
黒(ケース付)
フレーム価格12,000円